

ふくい戦国ゆかりの地を巡る



戦国歴旅
www.sengoku-fukui.jp
ガイドブック

越前 若狭
戦国歴旅
www.sengoku-fukui.jp

戦国の世を駆け抜けた

朝倉氏の光と影……04

This is 戦国城下町

朝倉の地に降り立つ……06

朝倉氏5代103年の

戦火と栄華……08

成り上がり者を討て！朝倉氏・打倒信長の決意

「金ヶ崎の退き口」

信長の逃亡ルートをとどろ……10

義景最期の地で見ると

新時代の足音……12

朝倉氏が愛した

今に誇る伝統の美と技……14

武芸を極める……16

当時の文化を感じる

中世の貴重なアイテム……18

朝倉のライバル

信長と福井のつながり……20

朝倉に仕えた時代の光秀を見る！

明智の素顔……22

若狭武田氏

9代143年の歴史……24

戦国の美女お市の運命をたどる……26

勇将柴田勝家&

戦国の美女お市の運命をたどる……26

若狭 戦国武将ゆかりの地をめぐる……28

戦国の城めぐり

13【山城編】……30

14【平城編】……31

若狭の水城と

古式ゆかしい文化にふれる……32

乱世をくぐり抜けた

知恵&機転……34

戦の息づかいを

間近に感じる……36

浄土真宗布教の拠点で感じる

蓮如の想い……40

戦国の祈り&

中世の大規模寺社……42

中世の天宗教都市

平泉寺……38

ふくい戦国豆知識

……44

福井県内歴史系博物館一覧

……46

ボランティアガイド一覧

……47

ふくい戦国マップ

……48

索引

……50

フィールドノート

……51

世界及日本図八曲屏風[日本図](福井県立若狭歴史博物館蔵)(国指定重要文化財)

一乗谷・朝倉氏 5代103年とその時代背景



朝倉孝景画像(心月寺蔵)



朝倉義景画像(心月寺蔵)



姉川合戦図屏風(福井県立歴史博物館蔵)

1450

孝景(享年54) 応永35年(1428)～文明13年(1481)

●宝徳3年(1451) 孝景、家督を継ぐ

●応仁元年(1467) 応仁の乱で西軍として活躍

●文明3年(1471) 東軍に寝返る河俣の合戦を皮切りに越前統一を目指す

氏景(享年38) 文安6年(1449)～文明18年(1486)

●文明13年(1481) 氏景、家督を継ぐ

●文明18年(1486) 貞景、家督を継ぐ

貞景(享年40) 文明5年(1473)～永正9年(1512)

●永正3年(1506) 九頭竜川の戦いで加賀の一向揆を撃退

●永正9年(1512) 孝景、家督を継ぐ

1500

孝景(享年56) 明応2年(1493)～天文17年(1548)

●天文2年(1533) 義景、生まれる

●天文17年(1548) 義景、家督を継ぐ

●天文24年(1555) 朝倉宗滴、死去

義景(享年41) 天文2年(1533)～天正元年(1573)

●永禄6年(1563) 国吉城籠城戦始まる

●永禄11年(1568) 足利義昭、朝倉館御成

織田信長、上洛

●元亀元年(1570) 姉川の合戦

●天正元年(1573) 刀根坂の合戦で大敗

大野で義景自害

1550

大谷吉継 永禄2年(1559)～慶長5年(1600)

栗屋勝久 ?～天正13年(1585)

お市の方 天文16年(1547)～天正11年(1583)

真柄十郎左衛門 天文5年(1536)～元亀元年(1570)

織田信長 天文3年(1534)～天正10年(1582)

明智光秀 享禄元年(1528)～天正10年(1582)

金森長近 大永4年(1524)～慶長13年(1608)

柴田勝家 大永2年(1522)～天正11年(1583)

武田元光 明応3年(1494)～天文20年(1551)

1600

光朝と倉倉氏の影



朝倉義景画像(心月寺蔵)

唐門(からもん)
朝倉義景の菩提を弔うため後に建立された寺・松雲院の門で、朝倉館跡の正面に位置する朝倉氏遺跡のシンボル。

戦国時代、103年にわたって越前を統治した華麗なる一族、朝倉氏。

応仁・文明の乱で軍功をあげた朝倉孝景は、文明3年(1471)将軍・足利義政から越前守護職を朝倉孝景の望みに任ぜるといふ御内書が下され、越前国の支配者となった。我が国初の戦国大名の誕生である。公家の日記では、「天下一の極悪人」と称された孝景だが、智・仁・勇の三徳をもって越前を統治した名君であった。当時としては先進的で合理的な考え方をもち、「神仏、占いに頼るべきにあらず」「各人の能力や忠節によって登用すべし」などといった分国支配や家臣統制を記した家訓「朝倉孝景条々」により、この越前に、ゆるぎない地位を築いていった。拠点とした一乗谷には、朝倉氏によって日本で初めて京のまちなみを描いた「京中の屏風」をもとに、「ユートピア」が創り上げられた。越前朝倉氏・初代孝景から5代義景まで、繁栄を極めた王国には、1万人以上の人々が暮らし、荒廃した京からは入れ替わり立ち替わり延べ100人以上の公家や文化人が訪れた。華麗な朝倉文化が開花し、一乗谷は、京の都に勝るとも劣らない、全国屈指の巨大都市となった。

我が国初の戦国大名・朝倉孝景。



英林壁書[朝倉孝景条々]
(明治大学図書館蔵)

戦国の世にありながら、何を想い、何を望んでいたのか？ 勝者だけでは語れない。義景という人間の哀歓。

朝倉氏最後の当主となった5代義景は、室町幕府将軍・足利義輝から「義」の字を賜り、幕府管領・細川晴元の娘や関白・近衛種家の養女・近衛殿などを娶り、公家のような雅な生活を楽しんでいた。先代までの努力によって築かれた平和や安定を貪り、「戦国時代を生き抜くリーダー」としての資質に欠けていた」と言われることも少なくない。同じ時代を生きた、戦国の覇者・織田信長と比べれば、その生き方、人間性は対照的だった。信長が凄まじい野心と知力、武力、そして運をも味方につけ時代を駆け抜けていったのに対し、義景の視線は、一体どこにあったのか。



絵中央が細川管領邸。朝倉義景の館は、この館にならって築造したと言われている。紙本着色洛中洛外図屏風[歴博甲本](国立歴史民俗博物館蔵)

華麗な朝倉文化を物語る出土品。

朝倉氏遺跡からは当時の生活文化を知ろううえで重要なカギを握る茶器、文具類、職人道具などを含む170万点以上の遺物が出土し、そのうち2343点が国重要文化財の指定を受けている。



日本最古のヴェネチアンガラス(破片)からできた復元品・ゴブレット(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館蔵)

華やかなエピソードが残る文化人・義景だが、義景の時代にも一向一揆との限りなき戦いや近隣大名との勢力争いがあった。戦場に赴くのは専ら大祖父・朝倉宗滴(父子三代にわたり参謀役となって補佐し、「武者は犬ともいへ、畜生ともいへ、勝つことが本にて候」と言い記すほどの百戦錬磨の武将)であったが、義景23歳のとき、他界。その後、しばらくは、安波賀河原で曲水の宴を催したり、藁の荘大窪での盛大な犬追物を挙行したり、糸桜が美しい南陽寺での宴遊などに興していた。我が領地を少しでも拡大しようと殺戮を繰り返す大名たちを知りながらも、義景は、この一乗谷だけは平和であり続けると信じていたのだろうか。信長の天下統一に巻き込まれ、やがて一乗谷にも動乱の波が押し寄せてくることを知っていたいながら、王国の繁栄を、ただただ望んでいたのかもしれない。

辞世の句は、「七転八倒四十年中無他無自四大本空」。義景41歳。静かに散った。



戦国時代を体現する「朝倉象棋(しょうぎ)」。

昭和48年(1973)に発見され、当時としては「日本初・日本最古の将棋の駒」。中でも「酔象」は現在の将棋にはない特殊な駒。敵地に入ると「太子」となる。王将が取られても太子が取られない限り勝負が終わらないことから、子孫まで根絶やしにする戦国時代の冷徹さがうかがえる。



170万点以上の出土品の中から武具や食膳具、茶道具などを展示。

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

福井市安波賀町4-10

☎0776-41-2301

開 / AM9:00~PM5:00(入館はPM4:30まで)

休 / 年末年始、その他臨時休館有

料 / 常設展大人100円(復原町並との共通券230円)

上城戸跡

(かみぎどあと)

当時の正面・大手門。谷の最も狭くなったところを選び土塁が築かれ、北にある下城戸とともに城下を守る城門の役割を果たしていた。



特別名勝 諏訪館跡庭園

(すわやかたあとといえん)



朝倉氏遺跡で最も大きな規模を誇る豪華華麗な庭園。滝石組の滝副石は高さ4m以上で国内最大。日本有数の池泉回遊式庭園で、義景が最後に娶った最愛の妻・小少将のために造ったと言われている。

下城戸跡

(しもぎどあと)

上城戸と同じく城下町の内と外を遮断するように築かれた、基底部幅約18m、上面で幅約8m、長さ約38m(一部は県道によって削り取られている)の土塁。土塁の西側に巨石を組み合わせた通路跡があり、外側から町の中が見通せないように曲折状に造られている。



大小38体が一堂に!
朝倉を見守る石仏。

西山光照寺跡

(にしやまこうしょうじあと)

朝倉氏の時代において、最大規模の寺院。発掘調査で確認した礎石建物や地下式倉庫跡、溝跡、石積施設跡などが復元されている。参道の両側に2m以上の不動明王像を含め、大型の石仏約40体が向かい合うように並んでいる。巨石を用いた石垣なども復原。

☑ 西山光照寺跡 福井市安波賀町



将軍をもてなした祝いの膳!

朝倉膳

朝倉氏5代義景が後に室町幕府最後の将軍となる足利義昭を、当時の最高級料理でもてなしたとされる祝いの膳を「呉汁」や「ごまころ」など、地元の伝承料理で再現した。朝倉膳は「一乗ふるさと交流館」で実際に味わうことができる。

福井市東新町1-21(一乗ふるさと交流館)
予 / 10名以上の受付で、1週間前までに要予約
料 / 2,500円
問 / 090-6816-6992(一乗ふるさと料理クラブ)

発掘によってよみがえった戦国大名朝倉氏の城下町。その実像が明らかに!
朝倉氏が築き上げた全国屈指の巨大都市は、天正元年(1573)8月、織田信長の軍勢によって焼き尽くされた。後に越前の地を治めた柴田勝家が拠点をおく北庄に移したため、一乗谷は、特に開発されることもなく、400年以上、土の中で静かに眠ることになる。昭和42年(1967)から本格的な発掘調査が始まり、高度な作庭技術を駆使した名園のほか、国内最古の花壇遺構を持ち都の管領邸に匹敵する大規模な当主の館跡、計画的に整備された先進的都市の跡、華麗な朝倉文化を物語る数々の遺物などが発見され、昭和46年(1971)、国の特別史跡に指定。現在も発掘調査が続けられている。東の山頂に構えた大規模な山城と近隣の山々に配置された砦群の存在や、これまでの定説を覆す驚くべき発見から、一乗谷が全国で唯一、そのまま残された戦国城下町跡であることを思い知るのだ。



復原町並



全国に先駆けて、大規模な武家屋敷と職人等の小規模な住居からなる町並を忠実に立体復原。地下に眠っていた建物の礎石や堀の石垣をそのまま使って、当時の建築技術により再現されている。南北を走る当時の道路もそのまま再現。戦国城下町での人々の暮らしを垣間見ることができる。



☑ 一乗谷朝倉氏遺跡 復原町並
福井市城戸ノ内町28-37
☎0776-41-2330(朝倉氏遺跡保存協会)
開 / AM9:00~PM5:00(入場はPM4:30まで)
休 / 年末年始(12/28~1/4)
料 / 210円(一乗谷朝倉氏遺跡資料館との共通券230円)

信長の手によって灰塵と化したその後、400年以上地中で眠り続けた城下町。



遺跡散策案内アプリ QR

一乗谷 朝倉の地に降り立つ!

This is 戦国 城下町



朝倉氏5代103年の戦火と栄華。

初代孝景×甲斐氏 「杣山城攻略」

朝倉氏の台頭！
越前北部を制す。

朝倉氏を戦国大名へと飛躍させた初代孝景。敵対したのは、甲斐氏と大野郡に滞在した斯波氏。特に甲斐氏とは毎年のように合戦し、その都度国外に追い出して越前支配を進めた。文明6年(1474)朝倉氏は杣山城(そまやまじょう)に立て籠もった甲斐勢を掃討。さらに、井野部・中野の合戦に勝利、斯波義敏を京都に送り返して越前一国の平定が成し遂げられた。

南越前町中央部、杣山の山頂に築かれた山城。

杣山城跡
南条郡南越前町阿久和61-34
☎0778-47-8005(南越前町教育委員会)

5代103年に渡って越前を治めた一乗谷・朝倉氏。戦国動乱の中、異例ともいえる長期政権はどのように築いたのか？ その戦火と栄光の歴史をたどる。

戦国時代の幕開けとともに、その名を世に轟かせた朝倉氏。



福井市と鯖江市の境にある山。標高365m。
杣山(もんじゅさん) 写真提供/森田信人氏

朝倉氏×甲斐氏 「河俣の合戦」

越前国を平定した朝倉氏の領土を望む！
文殊山からは、越前支配の第一歩を踏み出した甲斐氏対朝倉氏の「河俣の合戦」の舞台と、戦を制し、越前国を支配した朝倉氏の領土を一望できる。なお、文殊山も朝倉氏の支城で山城の遺構・堀切などを見ることができる。

来迎寺(らいごうじ)(敦賀城中門)
敦賀市松島町2-5-32 ☎0770-22-0654



跡には城跡を偲ぶが、門が影を落とす。中門が城の面影を偲ぶ。敦賀に「来迎寺」が残ったのは、敦賀郡司を移築したため。

3代貞景×朝倉景豊 「敦賀の乱」

本格的な戦国の世に朝倉家の躍進を支える。
3代貞景は、本格的な戦国の世に朝倉家を率いた人物。隣国・加賀で一揆が蜂起するなど、戦いも多かったが、美濃との同盟を結ぶなど、この地の安定にも尽力した。また、文亀3年(1503)には謀反を鎮圧するため、自ら出馬して敦賀城を攻め、朝倉景豊(敦賀郡司)を滅ぼした。

その城跡には、門が影を落とす。中門が城の面影を偲ぶ。敦賀に「来迎寺」が残ったのは、敦賀郡司を移築したため。現在、城跡には、門が影を落とす。中門が城の面影を偲ぶ。敦賀に「来迎寺」が残ったのは、敦賀郡司を移築したため。



九頭竜川
まるで戦乱など無かったかのように静かな流れを見せる九頭竜川(福井市中角付近)。

3代貞景×一向一揆 「九頭竜川の戦い」

奇襲で劣勢を跳ね返す！
一向宗を一蹴!!

貞景は永正3年(1506)の九頭竜川の戦いでは、朝倉家の参謀役・朝倉宗滴を総大将とし、約30万とも言われる北陸一向一揆の大軍をわずか8千から1万6千(諸説あり)で迎え撃った。宗滴は夜半に渡河を決行し奇襲をかけ、一向一揆を加賀に撤退させた。

4代孝景 幕府の命を受け 数年おきに隣国に出兵!

領国を安定させ全盛期を築く。
4代孝景の治世は朝倉5代の中で最も長く、かつ全盛期でもあった。領国の安定を背景とし、内外に華々しい動きを見せた時代。將軍の要請を受け数年おきに隣国に出兵し將軍の信頼を得たり、幕府に対して多額の献金を行ったりもした。越前に攻め込まれることはなかったものの、隣国加賀の内紛の影響を避けるための国境封鎖や、隣国の内紛を鎮圧するために出兵も行った。若狭国での若狭武田氏有力家臣・栗屋元隆の謀反、また、美濃や近江の内乱に積極的に軍事介入することで、政治的な地位を高めていった。



一乗谷城跡(宿直跡)
福井市城戸ノ内町



東郷横山城跡
福井市小路・安原・栃泉町

朝倉氏が築いた強固な山城

大規模な建物の跡が残る、一乗谷防衛の重要拠点。

福井市東郷の標高122mの丘陵にある横山城跡。一乗谷朝倉氏の祖・朝倉景景から数えて4代貞景の弟、東郷美作守正景が、一条家の莊園東郷庄を預けられた時に築いたとされる。一乗谷朝倉氏の本拠地を守る重要な防衛拠点のひとつとして、戦国時代に修築・拡充された。朝倉氏滅亡後は秀吉の家臣・長谷川秀一が入城。

朝倉氏を支えた重鎮・朝倉宗滴

朝倉貞景・孝景(4代)・義景の3代の朝倉氏当主を、一族の参謀格として補佐し、各地を転戦して武名を轟かせた豪傑。天文24年(1555)臨終の際「あと3年生きて、織田上総介(信長)の行く末を見たかった」と語ったとされ、早くから信長の才能を見抜いていたと言われている。彼の死は朝倉家の行く末を大きく変えることになった。

5代義景×織田信長 「狙われた越前」

燃え上がる一乗谷、華麗なる一族の終焉。
5代義景は天下統一の野望渦巻く動乱期の、朝倉家最後の当主。充実した内政で、一乗谷は華やかな一大文化都市として繁栄するが、織田信長の越前侵攻により滅亡に追い込まれる。信長軍により火を放たれた一乗谷は三日三晩に渡って焼き尽くされ、廃墟となった。103年続いた、華麗なる一族は終焉を迎えた。

越前国を見渡せる哀愁漂う山城跡。

朝倉氏遺跡のほぼ中央、朝倉館の背後にある標高473mの山頂に築かれた山城。織田信長の侵攻に備えて築かれたと言われる約140条の畝状堅堀(その数は日本最多)が要所に築かれた堅固な城だった。山頂の宿直跡(このいあと)からは福井・坂井平野を一望できる。



(城下町復元イメージ図)

- 北陸自動車道福井C ←車で約25分
- 文殊山 ←車で約15分
- 東郷横山城跡 ←車で約7分
- 一乗谷城跡 ←車で約20分
- 九頭竜川(福井市中角付近) ←車で約10分
- 北陸自動車道福井北C ←車で約10分
- 北陸自動車道今庄1C ←車で約40分
- 北陸自動車道今庄1C ←車で約10分
- 杣山城跡 ←車で約10分
- 北陸自動車道今庄C ←車で約20分
- 北陸自動車道敦賀1C ←車で約10分
- 来迎寺(敦賀城中門) ←車で約10分
- 北陸自動車道敦賀1C ←車で約10分





『絵本 豊臣勲功記』より金ヶ崎城での戦い (福井県立歴史博物館蔵)



『絵本 豊臣勲功記』より金ヶ崎城 (福井県立歴史博物館蔵)

金崎宮境内に展示されている金ヶ崎城周辺の模型

成り上がり者を討て! 朝倉氏・打倒信長の決意

「金ヶ崎の退き口」

信長の逃亡ルートをたどる!

時は、永禄11年(1568)、織田信長に守られて上洛し、室町幕府最後の将軍となった足利義昭。翌年、信長から一乗谷・朝倉氏5代・義景に、「上洛して従え」との書状が届くが、義景は無視。元亀元年(1570)4月、信長が越前侵攻。第1次信長包圍網がはじまる。

快進撃、裏切り、撤退…。刻一刻、変化する状況の中、あの信長が悪戦苦闘する!



信長軍先鋒の徳川家康が木ノ芽峠へ。信長が続こうとした時…

信長の上洛の命令を無視した、一乗谷の朝倉義景を討つため、越前に侵攻する信長。快進撃を続ける信長が撤退を余儀なくされるまでのそのルートをたどる!

信長に長政の裏切りを知らせたのは…?

長政の裏切りをいち早く信長に知らせたのは、長政の妻で信長の妹であったお市の方が送った小豆袋だったとか(P35参照)。

元亀元年(1570)4月、琵琶湖を北上する信長軍は熊川宿に泊った後、国吉城を経て敦賀に入り、天筒山城を攻撃。金ヶ崎城の朝倉景恒は城を明け渡す。

小谷城の浅井長政が朝倉軍に味方し、敦賀へ向かう。

信長はすぐに朽木谷を経て京都へ。この撤退戦で、敵を最後尾で防ぐしんがりを務めたのが木下藤吉郎(豊臣秀吉)だった。



▼ 妙顕寺(みょうけんじ) 敦賀市元町9-18 ☎0770-22-1342

金ヶ崎城攻めの際に信長が本陣を置く。
信長は金ヶ崎城攻めの際の本陣をこの寺の内庭に置いたとされている。信長とともに秀吉・家康もこの地を訪れた。



▼ 金ヶ崎城跡 敦賀市金ヶ崎町 ☎0770-22-0938(金崎宮社務所)

2000以上の死者を出す「越前攻め」の激戦地。
金ヶ崎城跡は敦賀湾を一望する小高い山に位置し、新田義貞が足利軍と戦った南北朝時代から戦国時代まで、さまざまな戦の舞台に。天筒山城の戦いは、朝倉軍・織田軍双方で数千もの犠牲を出す激戦となり、織田軍の勝利で朝倉景恒は金ヶ崎城を明け渡す。現在一帯は整備され、古戦場ウォーキングのスポットに。



▼ 熊川宿 三方上中郡若狭町熊川 ☎0770-62-2711 (若狭町歴史文化課)

わずか10人程度で京へと逃げのびる。
信長は、後の若狭街道・琵琶湖の西側を抜ける朽木谷を経て京都へ。近江の朽木氏の協力もあり、丸2日わずか10人ほどで京都にたどり着いた。

信長軍が一泊。家康が腰掛けた松の切り株も残る。
若狭と近江を結び、交通や軍事の面で重要な街道沿いにあった熊川城。信長軍は「越前攻め」で京都から敦賀へ向かう際に一泊している。「得法寺」には、その時に家康が腰掛けたといわれる松の切り株が残る。その後周辺は宿場町「熊川宿」となり、江戸時代には若狭から京へ鯖を運ぶ鯖街道最大の宿場町として栄えた。

信長・秀吉家康が天下へ飛躍した国吉城。
金ヶ崎城と天筒山城の戦いで織田・徳川連合軍の最前線の城となった国吉城。ここで信長は「越前攻め」の戦略を練り、天筒山城を1日で攻め落とし、金ヶ崎城を降伏に追い込む。また、浅井長政の裏切りによる退却時には、木下藤吉郎(豊臣秀吉)が「しんがり」を務め、信長は無事京都へ。2ヵ月後、「姉川の戦い」で再び対峙する。



▼ 若狭国吉城歴史資料館 三方郡美浜町佐柿25-2 ☎0770-32-0050 開/AM9:00~PM5:00(12~3月はAM10:00~PM4:30) ※入館は閉館30分前まで 休/月曜、祝日の翌日、年末年始 料/一般(高校生以上)100円

2ヵ月後の「姉川の戦い」で再び両軍激突!



姉川合戦図屏風(福井県立歴史博物館蔵)

北陸自動車道敦賀IC	←車で約10分
金ヶ崎城跡	←車で約8分
妙顕寺	←車で約25分
若狭国吉城歴史資料館	←車で約35分
熊川宿	←車で約20分





写真提供 / 佐々木 修氏

■越前大野城
大野市城町3-109 ☎0779-66-0234
開 / AM9:00~PM5:00(10~11月はPM4:00まで)
休 / 冬期間(12/1~3/31) 料 / 大人200円



天空の城の
撮影はココ!

越前大野城がある亀山の西に位置する「成山城跡」が、「天空の城」撮影スポット。時期や気象条件が揃った時に限り貴重な姿を拝見できる。



大野の歴史のことなら。モリスユウ4

大野のあらゆる歴史資料を収集・保存・展示。特に白山信仰については、立山信仰との関連を示す資料など新出資料もある。奥越の歴史・文化はもちろん、中世仏教や岩佐又兵衛絵画の資料も数多く展示する。

■大野市歴史博物館
大野市天神町2-4 ☎0779-65-5520
開 / AM9:00~PM4:00(日祝はPM5:00まで)
休 / 月曜(祝日の場合は火曜休)、祝日の翌日、年末年始
料 / 大人200円

朝倉の次に大野を治めた金森長近。朝倉氏の滅亡から2年後、天正3年(1575)、信長は一向一揆を鎮圧した功績により越前国大野郡を金森長近に与えた。長近は、大野の西端にある成山城に一旦入城した後、東側の亀山に大野城(後に長近が居城、その東のふもとに城下町を整備。大野城は外堀と内堀を設け、石垣を組み、天守閣を構えた平山城で、當時は2層3階の大手守に2層2階の小天守、付櫓があったとされている。近年は雲海の中に浮かぶ幻想的な姿を見ることができることから「天空の城」として一躍有名に。全国のお城ファンが足を運んでいる。

城跡に向かう山道は急勾配なところもある。服装には注意を。

400年以上前の城下町。名残が随所に残る風情ある町。金森長近は大野で京都に横した碁盤の目の町づくりを行う。町の東端に寺を集めて「寺町」をつくり、そこから西に五番・四番・三番・二番・本町通りを配置。現在の「寺町通り」は、長近の城下町づくりを今に伝えているエリア。真宗を中心に9つの宗派の寺院を並べ、当時、敵が攻めにくいようにするための防壁として整備していた。

●人力車「越前こぶし組」
☎0779-65-5521(大野市観光協会)
人力車の営業 / 春分の日~11月末までの土日祝(1週間前までに要予約)

人力車で歴史探訪! 寺町通りは、16ヶ寺の御朱印集めをしながらの散策もよい。歴史の流れを感じながら、時には人力車で城下町めぐりもおススメ。



- 北陸自動車道敦賀IC ←車で約12分
- 大野市歴史博物館 ←徒歩で約10分
- 大野まちなか ←徒歩で約15分
- 越前大野城 ←車で約30分
- 二乗谷朝倉氏遺跡 ←車で約15分
- 北陸自動車道福井IC ←車で約50分
- 北陸自動車道敦賀IC ←車で約12分
- 足壇城跡刀根坂 ←車で約12分
- 北陸自動車道敦賀IC ←車で約50分
- 北陸自動車道福井IC ←車で約15分

大野新時代の足音

大野義景最期の地で見る

4年にわたった信長との戦いはいよいよ最終章へ。



浅野文庫蔵諸国当城之図 越前大野 (広島市立中央図書館蔵)



「元龜争乱」信長包囲網で追いつめられた信長が逆転・朝倉氏滅亡へ…

- 元龜元年(1570)
 - 4月25日 織田信長が敦賀郡に侵攻し天筒山城を落とす
 - 4月28日 信長勢が退却する(金ヶ崎の退き口)
 - 6月28日 姉川の戦い(姉川を挟み浅井長政は信長勢と朝倉景鏡に家康勢と戦う)
 - 9月13日 朝倉義景が2万余騎の軍勢を率い、乗谷を出陣。近江志保郡に向けて進軍する
 - 12月13日 義景は信長と和睦し兵を引く
 - 元龜2年(1571)
 - 8月 9月 義景は敦賀に在陣し、信長勢の侵攻に備える
 - 9月12日 信長が比叡山延暦寺坂本日本寺社を焼き打ちに
 - 10月 義景が若狭小浜に出陣する
 - 11月 義景が乗谷に帰陣する
 - 元龜3年(1572)
 - 7月24日 義景が3万2千余騎を率い、乗谷より小谷城に出陣。以後小谷城に籠城する
 - 12月3日 小谷城に番勢を置き、義景は越前に帰陣する
 - 元龜4年(1573)
 - 3月11日 義景が敦賀へ出陣する
 - 3月 義景、足利義昭の要請に応じて上洛を約す
 - 4月4日 信長が上洛を焼き足利義昭を屈服させる
 - 5月11日 義景が乗谷へ帰陣する
 - 7月3日 足利義昭が京都を退き、山城樞島城に籠る
 - 7月13日 義景は浅井氏救援のため、一乗谷を出陣
 - 天正元年(1573)
 - 8月10日 義景、近江柳ヶ瀬から木本地蔵山へ陣替。信長の攻勢により小谷城に入らず
 - 8月12日 夜退却し、翌13日刀根坂で大敗する
 - 8月15日 義景が一乗谷へ入る
 - 8月16日 一乗谷の館を出、大野に逃れ洞雲寺(大野市)に入る
 - 8月18日 信長の先兵が一乗谷を焼き払う
 - 8月19日 義景六坊賢松寺に移る
 - 8月20日 裏切った朝倉景鏡の兵に囲まれ、義景が自刃

信長の猛追が始まる! 信長を窮地に陥らせた「金ヶ崎の退き口」後、「姉川の戦い」では勝利したものの、今だ信長にとって最大の抵抗勢力であった朝倉義景と浅井長政。元龜元年(1570)12月14日、一旦和睦するものの、朝倉・浅井勢と信長との戦いは続いた。時には本願寺頭如や甲斐の武田信玄が朝倉に味方し、逆転のチャンスは何度かあったのだが、元龜4年(1573)7月17日、義景が国中の諸勢を引き連れて一乗谷を出立する。



●朝倉義景墓所 大野市泉町 ☎0779-66-1111(大野市観光振興課)

信長は浅井長政の居城である小谷城(北近江)の支城・大獄城などを攻め落とし、義景の軍を攻撃。義景軍は信長軍の猛攻により足壇城(ひきだじょう)へ退却した。8月13日、退却途中の「刀根坂の戦い」は凄惨を極める。義景軍は一乗谷へ退却するが、義景の従兄・朝倉景鏡の進言により一乗谷を捨て、数多くの僧兵がいた平泉寺を頼りに大野に逃れた。大野で体制を立て直しを図ったが、最後には景鏡の裏切りにより、8月20日、義景は大野六坊賢松寺にて自刃。5代103年にわたる越前を支配した名門・朝倉氏は滅亡する。刀根坂の大敗から、わずか8日のことだった。



朝倉義景画像 (心月寺蔵)



越前漆器

起源は古く6世紀にまで遡る。第26代継体天皇が幼少の頃の御冠の塗り替えを、河和の郷の塗師に命じられ、塗師は修理した御冠とともに手塗の黒塗の食器を献上。その光沢の見事さと堅牢なつくりを奨励されたのが越前漆器の始まりと伝えられている。朝倉氏の時代には、こうした在地職人たちの商売の特権を保護するなどして地元産業育成のため尽力した。



国指定の伝統工芸品である越前漆器。職人による製造工程から歴史まで見学ができ、漆器の技術による祭用の「山車」も展示している。また、絵付けや沈金、拭き漆などの体験も可能で、オリジナルのMY漆器が作れる。

- うるしの里会館
鯖江市西袋町40-1-2 ☎0778-65-2727
開/AM9:00~PM5:00
料/入館無料、体験1,500円~2,500円(要予約) 休/第4火曜(祝日の場合は翌日休)、年末年始



本殿から河和田の街並みが一望できる。普段非公開の見事な漆の天井絵は事前予約があれば見学が可能。

- 漆器神社(河和田町)
鯖江市河和田町 ☎0778-65-1987(河和田町会館) 開/見学は要予約



1500年前、後の継体天皇に冠の補修を命じられた片山の塗師が祈願後に補修したとされ、漆器作りが手作業だった当時の道具が残っている。

- 漆器神社(片山町)
鯖江市片山町 ☎0778-53-2230(鯖江市商工政策課)



陶芸教室や本格的な茶室で庭園を眺めながらのお抹茶を楽しめる「福井県陶芸館」をはじめ、伝統的な壺や皿、ワインカップまで1000アイテムの商品を展示し、直接購入することができる「越前焼の館」など、越前焼の魅力や存在に体感することができる。

- 越前陶芸村
丹生郡越前町小曾原120-61 ☎0778-32-2174(福井県陶芸館)
開/福井県陶芸館 AM9:00~PM5:00 ※手ひねりコースはAM9:00~AM10:00、PM1:00~PM2:00、絵付けコースはAM9:00~AM11:00、PM1:00~PM3:00に受付が必要。休/(福井県陶芸館)月曜(祝日を除く) 休日の翌日(土・日・祝日を除く)、12/28~1/4 料/(入館料)一般200円、高校生以下無料(手ひねりコース)1,200円(絵付けコース)500円~



- 朝倉氏遺跡 出土の越前焼
(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館蔵)

越前町平等地区

その昔、陶工たちの墓を仲間が心をこめて焼き上げた甕で作ったという「甕墓(かめはか)」の跡が現在も残されている。



越前焼

日本六古窯の一つに数えられる越前焼。その歴史は古く、今から約800年前平安末期にはじまる。一大生産地であった越前町からは現在200基以上の古窯が発見されている。朝倉氏が越前を支配する15世紀後半、一乗谷という巨大な消費地の誕生が引き金となり、発展したと考えられている。貯蔵に使われる越前焼の壺・甕のほか、朝倉氏遺跡出土の壺では、お菌黒壺や蔵骨器などが発見されている。

朝倉氏が愛した美と技

歴史が導く伝統の技と美の軌跡は、今もなお受け継がれている。



能面・能楽

日本独自の幽玄の世界を語り継ぐ能面。越前は、中世能面の創作期には多くの面打ち師を輩出した。越前目家、大野目家など、世襲面打ち家の発祥の地であり、白山平泉寺の僧・三光坊が祖とされる。中世の時代、白山信仰の寺社では猿楽能が奉納され、越前朝倉氏も猿楽能などの芸能を保護した。

- 能面美術館
今立郡池田町志津原17-2 ☎0778-44-7757
開/AM10:00~PM5:00(平日はPM4:00まで) 休/火曜(祝日の場合は翌日休) 料/一般300円、小中学生200円



現在、能で使われている170種類目のうち、約70種類の面や、古面を展示している。



文化歴史館では、「劔神社と神仏習合」、「織田信長と劔神社」、「越前焼の歴史」などをテーマに、考古資料・古文書・絵画・復元模型なども展示している。

- 越前町織田文化歴史館
丹生郡越前町織田153-1-8 ☎0778-36-2288
開/AM10:00~PM6:00(入館はPM5:30まで) 料/一般100円、中学生以下・70歳以上無料 休/月曜(祝日の場合は翌日休)、年末年始



国指定の重要無形民俗文化財「水海の田楽能舞」をはじめとする能面や衣装を展示。

- 能楽の里歴史館
今立郡池田町稲荷 ☎0778-44-6475
開/AM9:00~PM4:00 料/一般200円、小中学生100円 休/土・日、祝日のみ開館、平日は団体予約のみ受付(☎0778-44-8006)



北陸自動車道鯖江IC	一車で約15分	うるしの里会館
越前町織田文化歴史館	一車で約30分	能楽の里歴史館
越前陶芸村	一車で約40分	能面美術館
越前和紙の里	一車で約25分	能楽の里歴史館
越前焼の館	一車で約40分	能楽の里歴史館
越前陶芸村	一車で約15分	能楽の里歴史館
北陸自動車道鯖江IC	一車で約15分	能楽の里歴史館



越前和紙

1500年の歴史を誇る越前和紙。古代から仏教に必要な写経用紙として、また中世では主君が出す命令や伝達を家臣などがしたため発給する「奉書」の公用紙としてよく使用されていた。中でも楮(こうぞ)の繊維だけで漉く「生漉奉書」は、表面がなめらかで上品な光沢を持ち、手ざわりもよく丈夫であったため、最上級の奉書紙とされていた。越前和紙は朝倉氏の時代にも重用され「紙座」として産業振興を図った。



越前和紙の里

越前市今立地区は、日本有数の高級手すき和紙の産地。越前和紙の発祥の歴史やさまざまな和紙製品を展示する「紙の文化博物館」、伝統工芸士が昔ながらの道具を使って和紙を漉く様子が見学できる「卯立の工芸館」、紙すきが体験できる「パピルス館」などがあり、長い歴史と、最高の品質と技術を誇る「越前和紙」に見て触れて楽しめる。



- 卯立の工芸館
越前市新在家町9-21-2 ☎0778-43-7800
開/AM9:00~PM4:00 休/火曜、年末年始 料/一般200円(紙の文化博物館と共通)



紙漉き体験が可能で、はがきや名刺、コースター、うちわ、シェードランプなど、約20分~40分でオリジナルアイテムが作成できる。

- パピルス館
越前市新在家町8-44 ☎0778-42-1363
開/AM9:00~PM4:00 休/年末年始 料/紙漉き体験500円~



- 紙の文化博物館
越前市新在家町11-12 ☎0778-42-3260
開/AM9:00~PM4:00 休/火曜、年末年始 料/一般200円(卯立の工芸館と共通)



大杉が立ち並ぶ、厳格な雰囲気にも包まれた神社は、全国で唯一の「紙祖神」として、この地に紙漉きの技を伝えたことされる川上御前を祀る。

- 岡太神社・大瀧神社
越前市大滝町23-10 ☎0778-42-1151

武芸を極める

**稀代の豪傑！
真柄十郎左衛門直隆。**

朝倉氏に使えた真柄十郎左衛門直隆は、武勇に優れ、身長2mを超える大男だったと言われている。朝倉・浅井連合軍と織田・徳川連合軍が激突した姉川の戦いでは自慢の太郎太刀を水車のように振り回して奮戦。織田・徳川軍に押し返され、敗走する朝倉軍を見ながらも、単騎で徳川軍に突入した。戦国時代の戦は集団での混戦。その中で徳川勢を薙ぎ倒し、返り血を浴びながら阿修羅のごとく奮闘した。稀代の豪傑だった。だが、多勢の前で力尽きると「我頭を御家の誉れにせよ」と敵に首を献上して果てたという。

真柄十郎左衛門直隆



「絵本 豊臣勲功記」より(福井県立歴史博物館蔵)
真柄十郎左衛門直隆
(まがらじゅうろうざえもんなおたか1536-1570年)
朝倉氏の家臣。北国の豪傑として知られ黒鹿毛の馬に乗り、越前の刀匠千代鶴の作による五尺三寸(約175センチ)もの太刀「太郎太刀」を振り回して戦った。



越前・真柄荘(現在の福井県越前市)の国衆であった真柄氏。ゆかりの地・越前市では、味真野観光協会が文献に基づき、キリ材で全長約3メートルの大太刀を再現。万葉菊花園に展示している。
❑ 万葉菊花園
越前市余川町22-96-1
☎0778-27-7800
開/AM9:00~PM5:00
休/月曜(祝日を除く)、祝日の翌日、年末年始

生死をかけて民衆が一揆・団結した時代。戦国乱世。その中で育まれた芸術・文化に触れる。

モデルコース 6

- 北陸自動車道 武生IC ←車で約12分
- 万葉菊花園 ←徒歩(約5分)
- タケフナイビルレッジ ←車で約35分
- 福通寺 ←車で約55分
- 糸崎寺 ←車で約60分
- 一乗谷朝倉氏遺跡 復原町並 ←車で約15分
- 北陸自動車道 福井IC



幸若舞の中でも、織田信長が好んだといわれる「敦盛」の一節が描かれた福通寺「敦盛」の絵馬。

❑ 福通寺(ふくつうじ)
丹生郡越前町朝日7-61
☎0778-34-0621

戦国武将が好んだ幸若舞。ゆかりの寺「福通寺」。

武士の華やかにかつ哀しい物語を主題にした中世芸能「幸若舞」。「信長公記」では、「信長敦盛の舞を遊ばし候。人間五十年下天の内をくらぶれば、夢幻のごとくなり。一度生を得て滅せぬ者のあるべきか」と候て、螺ふけ、具足よこせと仰せられ、御物具召され、たちながら御食をまいり、御甲めし候ひて御出陣なさる。」と、桶狭間の戦いの前に信長が舞ったと言われている。幸若舞は、桃井直詮を始祖とし、朝倉氏をはじめ、織田信長や豊臣秀吉など多くの戦国武将たちに愛好された。「福通寺」には幸若舞の家とゆかりの深い「梵鐘」などの文化財が伝わっている。また、福通寺の千手観音堂には、縁者とされる桃田其治が奉納したという江戸時代の算額がある。



❑ 糸崎寺(いとさきじ)
福井市糸崎町22-5 ☎0776-87-2431

義景が犬追物を挙行了際宿泊した寺。

永禄4年(1561年)、朝倉義景が粟庄大窪の浜(現在の三里浜南部福井市)で大規模な犬追物を挙行し、総勢1万人の大演習を行った際、その一行が宿泊した寺。義景は、この寺に太刀を奉納し「西の海入日の色も紅に寄せ来る波や糸崎の浦」と詠んでいる。また、1200年以上前から続く、舞楽「糸崎の仏舞」(国指定重要無形民俗文化財)でも有名な寺でもある。



賀茂競馬犬追物図屏風(国立歴史民俗博物館蔵)

犬追物とは、困いをめぐらした馬場に犬を放ち、馬上から射る競技のひとつ。世は間もなく鉄砲の時代に入るが、依然として弓矢は合戦における主要な武器だった。武技の修練の目的もあるが、内外に朝倉氏の武威を示すためでもあったと言われている。



戦国体験!

一乗谷朝倉氏遺跡内に「復原町並」で戦国時代の鎧兜や着物などをさまざまな衣装を着ることができ、当時をそのまま再現した町並みで戦国にタイムスリップ!

❑ 一乗谷朝倉氏遺跡 復原町並
福井市城戸ノ町28-37
☎0776-41-2330(朝倉氏遺跡保存協会)
開/AM9:00~PM5:00(入場はPM4:30まで)
休/年末年始(12/28~1/4)
料/入場料一般210円、着付け体験1回500円

曲水の亭



内海吉堂筆「蘭亭曲水図」(敦賀市立博物館蔵)

永禄5年(1562)、戦国時代の高僧で連歌師でもあった大覚寺義俊の越前下向に伴い、京下りの公卿・殿上人をもてなすため、一乗谷の近くの安波賀河原で曲水宴を催した。流水に盃を浮かべて詩歌を詠む優雅な遊び。義景の趣味や大名としての教養の高さがうかがえる。

刀鍛冶を見学!



農業用刃物の一大産地、越前市。およそ700年昔、京都の刀匠千代鶴国安が旅の途中、越前市に留まり刀剣をつくる傍ら鎌も製作したのが始まりとされている。越前市にある「タケフナイビルレッジ」では打ち刃物の製造見学や体験、商品販売を行っている。

❑ タケフナイビルレッジ
越前市余川町22-91 ☎0778-27-7120
開/AM9:00~PM5:00
休/年中無休 料/体験教室600円~



太刀 銘 行光
真柄十郎左衛門が使用したといわれる「太郎太刀」のひとつ(白山比咩神社蔵)

当時の文化を 感じる。 中世の貴重なアイテム

遙か昔の貴重なアイテムから
戦国の暮らしを感じとる。

愛王丸の たて笛

哀しき音色を奏でる!?
朝倉義景の忘れ形見。

完形の一節切としては日本最古のたて笛。朝倉義景自刃後、一子「愛王丸」が捕縛され、京に護送される途中に、丹羽長秀によって殺害された折、所持していたとされる義景遺愛のたて笛。



たて笛は、現在福井市の「長慶寺」で大切に保管されている。

□長慶寺
福井市西木田2-3-12
☎0776-36-1710



越前焼

平安時代からの長い歴史を持つ、
日本六古窯。

日本六古窯の一つにあげられる越前焼の歴史は大変古く、平安時代から始まったといわれている。室町時代後期には北国最大の窯場を持つ産地として繁栄。壺、甕、播鉢などの多様な越前焼は、生活必需品として一乗谷が大量消費地となっていた。

オリジナルの
越前焼作りに挑戦!



越前焼の
さまざまな魅力を
紹介する他、
陶芸体験もできる。



□福井県陶芸館
丹生郡越前町小曾原120-61 ☎0778-32-2174
開/AM9:00~PM5:00(入館はPM4:30まで)
休/月曜(祝日を除く)、休日の翌日(土日祝を除く)、年末年始
料/一般200円

福井市の愛宕坂にある
茶道テーマとする
美術館。



□福井市
愛宕坂茶道美術館
福井市足羽1-8-5
☎0776-33-3933
開/AM9:00~PM5:15
(入館はPM4:45まで)
休/年末年始
料/一般100円



戦国時代、
さまざまな用途に
使われた越前焼。

茶の湯文化

朝倉氏が育んだ、豊かな茶の湯文化。

京から、多くの公家や文化人が下向する中で、朝倉氏は戦国武将が身につけておくべき教養として和歌・連歌を詠み、蹴鞠を習い、絵を描くなど様々な遊びを嗜んでいた。中でも茶の湯は、高級な茶器だけでなく、瀬戸・美濃焼の天目茶碗なども大量に出土しており、下級武士にまで深く浸透し、盛んに行われていたようだ。



朝倉氏遺跡出土品
(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館蔵)

浄教寺の 砥石の 未製品



刀剣砥石のブランド品。

優れた砥石の産地「浄教寺」。一乗谷では研師といわれる職人の道具となった各種の砥石が発見されている。浄教寺砥石採掘に関わる町衆が育つほどの大きな産業になっていた。

化粧道具

女性の美へのこだわりは
時代を超えて。

戦国時代の女性は結婚すると眉毛を剃って歯を黒く染めた。和鏡や櫛・こうがい・毛抜・紅皿・お歯黒皿などもあり、オシャレに勤しむ女性の姿がうかがえる。



都との交流を静かに見守る。

京や奈良に近く、洗練された文化が早くから流入した若狭地域。奈良・平安の時代から都との深い交流があり、数多くの古刹が残る若狭。大切に守られてきた優れた仏像の数々など、「文化財の宝庫」とも呼ばれている。



国指定重要文化財など
数多くの仏像を展示。

□福井県立若狭歴史博物館
小浜市遠敷2-104
☎0770-56-0525
開/AM9:00~PM5:00(入館はPM4:30まで)
休/年末年始、その他臨時休館有
料/一般300円

若狭の “みほとけ”



□福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館
福井市安波賀町4-10
☎0776-41-2301
開/AM9:00~PM5:00
休/年末年始、その他臨時休館有
料/常設展100円
(復原町並との共通券230円)

170万点以上の出土品をもとに
戦国時代の人々の暮らしを
紹介。

豊かなくらしが伝わる、
朝倉氏遺跡出土の
生活用品。

染付蓮池魚草文大皿

城下町の繁栄を証明する美しい輝き。

中国で製作されたとされる高価な磁器も多数出土。当時の朝倉氏をはじめとする城下町の人々の豊かさを証明している。



バンドコと火桶

雪国の必需品、
石製の暖房器具。

バンドコは(いわゆる行火)は、足羽山から産出する「笏谷石」を削り抜いて制作された。炭火を入れて使用するもので、灰の残ったバンドコも出土している。



数珠の未成品



精巧なアイテムも製作、
高度なものづくり技術。
遺跡からは数珠作りの作業場が発見されていて、水晶の数珠玉や、製作途中の未完成品、穴をあけるときに失敗した数珠玉などが多数出土。

- 北陸自動車道福井IC
一車で約10分
- 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館
一車で約20分
- 長慶寺
徒歩で約12分
- 福井市愛宕坂茶道美術館
一車で約10分
- 福井県立歴史博物館
一車で約10分
- 福井県陶芸館
一車で約50分
- 福井県立若狭歴史博物館
一車で約5分
- 舞鶴若狭自動車道小浜IC
一車で約60分
- 北陸自動車道武生IC
一車で約35分
- 福井県立若狭歴史博物館
一車で約5分

朝倉の

織田の名前は越前の地名から。信長も氏神として崇めた「朝倉大明神」！

越前町にある劔神社は、織田信長の祖先が神官を務めていたことでも知られる。

応永年間(1394~1428)、神官の子「常昌」は、時の越前の守護斯波氏にその才能を見出され、家臣として取り立てられ、尾張の国に派遣された。苗字は故郷の地名をとって織田氏を名乗り、次第に尾張で勢力を伸ばし守護代にまで昇りつめる。そして、信長の時代には尾張一円を掌握。さらに勢力は日本全国へと広がりを果たした。

信長は戦国の乱世にあっても、劔神社を深く崇敬し、武運を祈るとともに、多くの神領を寄進するなど、劔神社の保護と住民の治安に尽くしたという。



織田信長のルーツ。
信長の御霊(みたま)が眠る。「越前二宮」という格の高さを誇る劔神社。信長は本能寺の変で最期を遂げ、天下統一の夢は消えたが、越前・織田庄の人々は信長の功績と威徳を偲び、御霊を境内の小松建勲神社に合祀した。
また、織田氏の家紋と劔神社の神紋は同じ紋章であり、昔から深いつながりがあることを示している。



ここも必見!

梵鐘(劔神社蔵)(国宝)
宝物殿には、銘によって製作年代が明らかになっている梵鐘の中で、日本で3番目に古い国宝の梵鐘が安置されている。

❑ **劔神社**(つるぎじんじや)
丹生郡越前町織田113-1
☎0778-36-0404
開/AM9:00~PM4:00(宝物殿)
休/宝物殿は雨雲時閉館
料/一般300円

信長と

北陸道を睨む幾多の戦乱。信長の「朝倉攻め」で廃城に。

かつて「北の比叡山」と呼ばれた杣山城は、南北朝の争乱期には新田義貞が延元元年(1336)から3年間籠城し、激戦の舞台となった山城。文明2年(1470)、朝倉孝景が日野川の合戦で斯波方を破った後、朝倉氏の属城となり、朝倉氏の家臣・河合宗清が城主になった。その後、織田信長の朝倉・浅井討伐の際に落城し、廃城。天正2年(1576)には、織田方に抵抗した一向一揆が立て籠もったとされる。

現在、本丸・二ノ丸跡の土塁や殿池などの山城の遺構や、姫穴・桂掛岩などの伝説の地形、西御殿、東御殿と伝わる平場などが確認できる。国指定史跡。



❑ **杣山城跡**(国史跡)
南条郡南越前町阿久和61-34
☎0778-47-8005
(南越前町教育委員会)

現在の越前市の南端にあったことから軍事上の要所とされた龍門寺城。現在も続く龍門寺が城跡。
❑ **龍門寺**(りゅうもんじ)
越前市本町9-5 ☎0778-22-2215

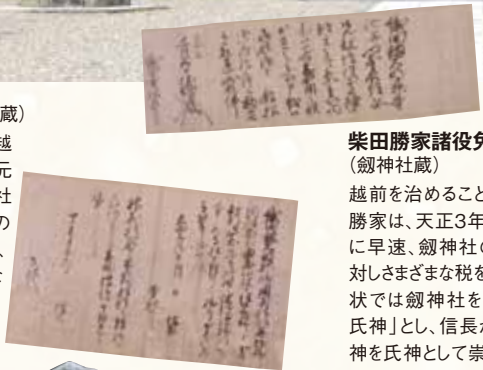


信長の「朝倉攻め」で「一向一揆攻め」で本陣を構えた城。

織田信長が、天正元年(1573)の刀根坂の戦いの後、敦賀、府中を経て一乗谷へ敗走する朝倉義景を追って、ここに本陣を構えた。朝倉氏滅亡後、一向一揆勢によって支配され、この討伐のために、天正3年(1575)信長は羽柴秀吉・明智光秀らに龍門寺城に攻め入らせ、再びここに入った。信長の越前平定後は、府中三人衆の一人不破光治の居城となり、天正16年(1588)

城跡に曹洞宗龍門寺が再建された。現在でも境内の南側には堀や土塁の跡が見られる。

織田信長安堵状(劔神社蔵)
信長が朝倉氏を滅亡させ越前を平定した直後の天正元年(1573)に、信長は劔神社の土地の領有や臨時の税の免除を認めている。加えて、劔神社から送られた巻数などに謝意を述べている。



柴田勝家諸役免許状(劔神社蔵)
越前を治めることになった勝家は、天正3年(1575)に早速、劔神社の門前に対しさざまな税を免除。書状では劔神社を「殿様御氏神」とし、信長が劔大明神を氏神として崇敬していたことを示している。

丹南地域に点在する古の合戦跡。遙か戦国に思いを馳せる。



❑ **府中城跡**
越前市府中1-13-7
府中城があったとされる場所は、現在の越前市役所一帯。越前市役所玄関脇には「越府城址」の石碑がある。



越前を平定後、前田利家を配置。
府中は早くから開け、越前の国府が置かれた地。南北朝時代、越前守護 斯波高経がここに新善光寺城を築き新田義貞と激戦。暦応元年(1338)義貞が斯波氏家臣に討ち取られ、寺院は焼失したが、貞治4年(1366)に戦死した数千人の霊を弔うため浄土宗の寺院を建立した。織田信長の一向一揆平定後は、前田利家(後の初代加賀藩主)を配置。能登七尾城に移封されるまでの6年間在城した。



江戸時代、府中城の表門は移築され、現在は正覚寺の山門となっている。
❑ **正覚寺の山門**
越前市京町2-1-8

福井のつなごり

- 北陸自動車道 鯖江IC
- ←車で約30分
- 劔神社
- ←徒歩で約3分
- 越前町織田文化歴史館
- ←車で約25分
- 府中城跡
- ←徒歩で約5分
- 正覚寺
- ←車で約7分
- 龍門寺
- ←車で約20分
- 杣山城跡
- ←車で約7分
- 北陸自動車道 今庄IC





明智の素顔

明智光秀画像 (本徳寺蔵)

朝倉に仕えた時代の光秀を見る!

良き妻との 夫婦愛を

見る!

「あけつつあま」と

呼ばれた

越前の

日々。

優しいのね。
明智さん。



明智神社 福井市東大味

光秀の意外な一面がみえる。
柴田勝家の木像が安置されていること、有名な西蓮寺には、柴田勝家・その臣の柴田勝定からこの東大味に住む人々宛てに出された2通の安堵状が残されている。その内容は、信長の越前侵攻の際に光秀が、かつて住んでいた東大味の人々の安否を気遣って、この地を戦禍から防ぐ為に柴田勝家らにこの安堵状を出すことを依頼したと言われている。



西蓮寺

西蓮寺(さいれんじ) 福井市東大味町31-4



称念寺(長崎城跡)

越前に入国し最初に訪れた場所。かつて光秀がこの門前にて寺子屋を開いていたとも言われているお寺。光秀は、極貧の生活を送りながらも、しばしば京に行き、將軍家に出入りして明智家再起の方策を練っていた。一向一揆来襲の際、朝倉軍に手柄を立てさせた光秀は、一乗谷の武将たちの関心を集め、この場所で朝倉の家臣と連歌の会を催す

チャンスを得て、朝倉氏の仕官への道が開かれた。この仕官には妻・熙子の賢明な努力があったとされる。



『絵本 豊臣勲功記』より (福井県立歴史博物館蔵)

光秀と妻との夫婦愛を伝える「黒髪伝説」。
朝倉の家臣と連歌の会を催すチャンスを得たが、流亡の生活を送る光秀には資金がない。そんな中、妻の熙子はその資金を黙って用意したのだった。称念寺での連歌の会は、熙子の用意した酒肴で大成功に終わり、やがて光秀は朝倉義景への仕官が叶い、一乗谷近くの東大味の館に移り住むことになった。しかし、その連歌会の資金は熙子が自慢の黒髪を売って用意したもので、光秀はこの妻の愛に添えて、どんな困難があっても必ずや明智家を再興し天下を取ると、誓ったとされる。

越前朝倉氏に仕官した明智光秀が一乗谷に迎えられる、館を構えたとされる場所。小さな祠があり、中には高さ13cm程の木彫りの明智光秀の木像が奉られている。また資料室では、明智光秀ゆかりの資料が展示されている。信長の重臣であった光秀の謀反「本能寺の変」は、戦国最大のミステリーとして諸説あるが、本能寺の変から400年以上経った、裏切者とのレッテルを貼られた光秀を「あけつつあま」と尊称して代々お祀りされている。

再起をうかがい過ごした一乗谷の住処。



一乗谷朝倉氏遺跡 福井市城戸ノ内町28-37 ☎0776-41-2330 (朝倉氏遺跡保存協会) 開/AM9:00~PM5:00 (入場はPM4:30まで) 休/年末年始 料/一般210円(一乗谷朝倉氏遺跡資料館との共通券230円)

鉄砲の射撃技術をかかわれ朝倉義景の客分として迎えられた明智は、しばらく滞在しながら転機をうかがっていたと言われている。また、同時期に一乗谷に滞在していた後の室町幕府15代將軍足利義昭ともここで親交を結び、織田信長に引き合わせたのもこの光秀と言われている。



あの芭蕉も感激!
「月さびよ 明智が妻の はなしせむ」。元禄2年(1689)、松尾芭蕉が称念寺に立ち寄った際に、この明智夫婦の話聞き、感激して詠んだ句である。

称念寺(しょうねんじ) 坂井市丸岡町長崎19-17 ☎0776-66-3675

美濃街道 岐阜(美濃国)から大野、福井へと続く街道。美濃国境から大野までは数本のルートがあったが、大野から福井までは現在の国道158号とほぼ同じルートをたどっている。明智光秀は、美濃・齊藤義龍に攻められ、居城・明智城が落城し、一家共々ふるさとを追われ、再起を図るべくこの美濃街道を通り越前に入国した。



住民に宛てて出されたと伝わる2通の安堵状。
1通は、一向一揆で退転していた西蓮寺に対して、元の場所に帰って住むように促したものだ。もう1通は、理不尽なことを言う者がいれば、その者の名前を伝えよ。厳罰に処す。来年の春には、勝家の城下である北庄に寺を建てよ。と書かれているもの。(当寺の文書は、福井県史資料編3中・近世一に紹介されている。)

モデルコース 9

- 北陸自動車道丸岡IC ← 車で約20分
- 称念寺(長崎城跡) ← 車で約30分
- 一乗谷朝倉氏遺跡 ← 車で約15分
- 明智神社 ← 車で約3分
- 西蓮寺 ← 車で約20分
- 北陸自動車道福井IC

若狭武田氏 9代

乱世に翻弄された、
名門武家・若狭武田氏の命運。

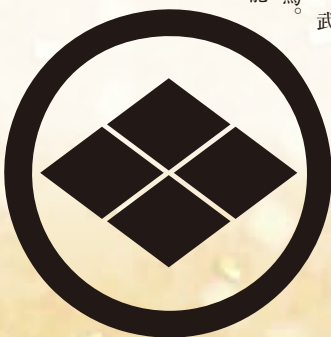
武田氏は、清和源氏の新羅三郎義光を祖とする武家の名門。武田氏本家は、はじめ甲斐国を拠点としていたが、やがて安芸に拠点を移した。安芸武田氏は、永享12年(1440)、室町幕府6代將軍足利義教の命により、当時の若狭守護・二色氏を討ち果たし、その恩賞として、武田信榮が若狭国守護となった。

若狭国は、京に近く、また京からみても北方の海の玄関口であり、さまざまな人と文化が行き交った。小浜湊という良港を有する重要な地域として、国内外から物資や情報などが集まり発展した。生きた象が記録上初めて日本に上陸したところでもある。このような地で、一流の文化人や公家と交流し、若狭武田初代・信榮から数えて5代・元信の時代には、伊豆守、大膳大夫の名乗りを許され、丹後国守護も兼務し、一族の中では、最も高い官職にまでなっていた。しかし統治は安定せず、土掻や反乱など苦しい戦いを強いられた。6代・

元光がその家督を継いだ後も若狭周辺は騒乱の渦中で、海賊や丹後勢の乱入、武田家臣最大の勢力を持つ粟屋氏の謀叛など苦しい時代が続いた。その後、信豊(若狭武田7代)と義統(8代)の間で争いが起こるなど、実質的に武田氏の若狭支配は困難となり、越前朝倉氏の援助無しでは若狭国の統治を続けられなくなっていた。若狭武田9代・元明が最後の若狭守護となるが、朝倉義景によって越前へ拉致された後、武田氏家臣の多くが織田信長の味方となった。

天正元年(1573)、信長が朝倉氏を滅亡させたことによつて、武田元明は若狭に帰還したが、復権は許されず、武田氏の若狭国統治は終焉。天正10年(1582)の本能寺の変で明智光秀に味方したこと、羽柴秀吉、丹波長秀の逆鱗に触れ、武田元明自害。若狭武田氏は滅亡した。

【若狭武田氏家系図】



「武田菱(四つ割菱)」といえば武田家の家紋として有名。この割菱紋は、宗家は4つの菱の間の白線が細く、一族のものはやや太くするなど細部にて区別をしていた。そのほかに武田氏の支流・庶流は「花菱」や「三階菱」「松皮菱」というように、宗家とは少し異なる意匠の菱紋を用いており、差別化されていた。



▼後瀬山城跡(のちせやまじょうあと)(国史跡)
小浜市伏原 ☎0770-53-1111(若狭おほま観光協会)

モデルコース 10

- 舞鶴若狭自動車道小浜IC ←車で20分
- 長福寺 ←車で25分
- 発心寺 ←徒歩で3分
- 後瀬山城跡 ←車で15分
- 福井県立若狭歴史博物館 ←車で5分
- 舞鶴若狭自動車道小浜IC

元光が創建した寺。修行僧の托鉢が冬の風物詩。

発心寺を巨大な石垣で囲み、後瀬山城の砦としての役割も果たしていたと考えられている。晩年の元光は出家し、発心寺で隠居。後に荒廃するが、江戸時代に入つて若狭小浜藩2代藩主・京極忠高によつて再建された。同寺には若狭守護職であった元光の姿を伝える室町時代末期作の貴重な木像が伝わる。また、裏山には武田元光の墓塔である宝篋印塔が残る。

若狭武田氏の本城 後瀬山城の跡。
元光が家督を継いだ頃、隣国の丹後からの攻撃に備えるため、大永2年(1522)天然の要害ともいえるこの地に大規模な城を整備した。内外ともに緊迫した状況下ではあったが、一方で山上付近に庭園風の施設を造り、そこで茶会や歌会を行っていたことが茶器などの出土品からうかがえる。代々、犬追物や流鏑馬などの弓箭故実を惣領相伝の技芸として伝え、武芸に秀でた武将であった若狭武田氏ならではの歴史。国指定



発心寺の寒修行

寒の入りから始まる寒修行は、網代笠(あじろがさ)を深くかぶり、黒い法衣にわらじといった服装で行われる。歩く座禅とも呼ばれ、雲水は鈴の音を鳴らしながら、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている「小浜西組」などの旧市街地を歩く。雪中の寒修行の様子は若狭ならではの冬の風物詩となっている。

撮影/藤本雅樹氏



▼発心寺(ほっしんじ)
小浜市伏原45-3
☎0770-52-0525



▼長福寺
大飯郡高浜町若宮3-18-1
☎0770-72-1907



若狭ならではのオリジナルグッズ!

若狭ゆかりの武将・武田氏、京極氏、酒井氏の家紋入りのコースターやバッグをはじめ、若狭の秘仏などの豊富な種類のポストカードなど、若狭ならではの歴史をモチーフにしたアイテムも多数!

常設展示は5つのゾーンに分けられ、国指定重要文化財級の仏像や若狭国を治めた歴代若狭守護の関連文化財、ジオラマなどを随所に配置。実物の資料を中心に、仏教芸術や祭りなどの文化とそれらを育んだ若狭の歴史を初めて訪れる人にもわかりやすく紹介している。



▼福井県立若狭歴史博物館
小浜市遠敷2-104
☎0770-56-0525
開/AM9:00~PM5:00(入館はPM4:30まで)
休/年末年始 料/一般300円

仏像や歴史資料など豊富な実物資料で、京・奈良との深いつながりを体感。

若狭武田氏初代の武田信榮の菩提寺。
長福寺は若狭武田氏初代・信榮の菩提寺として、往時は相應の伽藍(がらん)や堂宇を誇っていたとされる。元々は名勝として知られる高浜八穴に近い海岸沿いにあったが、武田氏に反旗を翻した武田家重臣・逸見氏が、高浜城を築いた際、現在の位置に移築させた。移築後もかなりの規模を誇っていたが、享保12年(1727)の高浜大火にてすべてが焼失。その後、再建されるものの縮小し、現在の規模となっている。



武田元光
ただどもとみつ(1494-1551)
父である元信の出家に伴い家督を継ぎ、後瀬山城を築くなどするが、京都出兵での敗戦や重臣の反乱など、支配は安定しなかった。元光はかなり高い知識を身に付けた教養人であり、和歌のレベルは地方領主のレベルをはるかに超えていたという。

武田元光画像(発心寺蔵)

勇将・柴田勝家 & 戦国一の美女・お市の運命をたどる

豊臣秀吉との戦いに敗れ、越前の地で生涯を終える。

越前の地で生涯を終えた伝説の猛将柴田勝家。

織田軍最強とうたわれ、戦場においては常に先陣を切り、「かかれ柴田」と評されていた柴田勝家。天正3年(1575)、信長より越前国を与えられ、北庄で築城を開始した。領主としての勝家は一乗谷から寺社や民家を移し、商人を呼び寄せるなど商業の発展に努め、勝家の行った政策の数々は、江戸期を経て現在の福井市街の発展に繋がる礎を築いている。

信長の死の翌年、天正11年(1583)、対立した豊臣秀吉との賤ヶ岳の戦いに敗れ、北庄城も落城。勝家は、市の子・三姉妹を逃がした後、北庄城主最上の九重目に登り上がり、皆に言葉をかけ、「修理の腹の切り様を見て後学にせよ」と声高く言々と、心ある者は涙をこぼし鏡の袖を濡らし、



「絵本 豊臣勲功記」より (福井県立歴史博物館蔵)

戦国の武将が築いた礎は、
今もなみこの地に息づいている。



勝家と市の居城 北庄城跡地。
北庄城の跡地と推定される、勝家と市を祀る神社。境内は公園となっており、資料館も併設。出土した城の石垣の一部も展示されている。勝家と市が碎世の句としてやり取りした「贈答歌」を刻んだ石碑が、往時の二人の心情を呼び起こしてくれる。

柴田神社
福井市中央1-21-17
☎0776-23-0849



公園内にある、茶々、初、江を祀る三姉妹神社。

柴田勝家

しばたかついえ(1522-1583)



柴田勝家画像(個人蔵)

織田家の筆頭家老。越前で起こった一向一揆を滅ぼし、織田信長から越前国を拝領する。信長没後、天正11年(1583)の賤ヶ岳の戦いで豊臣秀吉に敗れ、越前国へ退却。最期は北庄城落城とともに果てた。

市

いち(1547-1583)



お市の方画像(高野山持明院蔵)

織田信長の妹で、絶世の美女と言われた。信長が企む政略結婚で近江・浅井長政に嫁ぐが、浅井家滅亡後、3人の娘を連れて天正10年(1582)柴田勝家と再婚。北庄城落城の際、勝家とともに自刃した。

モデルコース
11

- 北陸自動車道福井IC
←車で約10分
- 柴田神社
←車で約5分
- 福井市立郷土歴史博物館
←車で約5分
- 旧一乗町
←車で約5分
- 西光寺柴田勝家公資料館
←車で約15分
- 北陸自動車道福井IC

悲運の武將に思いを馳せる。
勝家と市を弔う菩提寺。

境内には二人の墓のほか、発掘された北庄城の礎石が置かれている。この寺はもともと一乗谷近くにあったものを、北庄城築城の際に勝家の命で移転したという。併設されている資料館では、勝家直筆の書状や刀剣など逸品の数々を目にすることができる。



西光寺
福井市左内町8-21
☎0776-36-1528



柴田勝家公資料館
福井市左内町8-21
☎0776-36-1528
時/正午~PM4:00
休/年中無休
料/一般300円
※見学は事前予約が必要

勝家による
奇橋・九十九橋をはじめ、
さまざまな福井の歴史を展示。

織田信長の重臣で最も勇猛な武将のひとりとして語り継がれる柴田勝家。現代福井の繁栄と都市の歴史的基盤を創った名將・勝家の歴史や勝家の肖像画、北庄城主だった頃の書状などを展示している。



福井市立郷土歴史博物館
福井市宝永3-12-1
☎0776-21-0489
時/AM9:00~PM7:00(11/6~2月末はPM5:00まで)
休/年末年始、その他臨時休館有
料/一般210円



豆知識

旧一乗町

柴田勝家が朝倉氏の本拠地の一乗谷から住民を移住させて作った町で、福井城下で最も古い町名と言われている。現在もこの辺りの区画は、江戸時代の町割をほぼ残している。
福井市順化2-11(錦公園内)



若狭戦国武将ゆかりの地をめぐる

朝鮮出兵で大谷吉継が持ち帰った国宝の鐘が残る。

敦賀半島西浦地区にある常宮神社は、この場所で神功皇后が皇子・応神天皇を出産した伝説があることから、安産にご利益があるとされ、地元では「お産のじょうぐうさん」と親しまれている。山際の境内は深い緑と静寂に包まれ、目の輝く海は神域とされ、禁漁のおきてがあった。

この常宮神社宝物殿にあるのが、国宝の「朝鮮鐘」である。総高112cmと大型で、鐘の銘文に「太和七年三月」とあることから、西暦833年に铸

社伝によると、鐘は越前敦賀藩主・大谷吉継（豊臣秀吉の家臣）が朝鮮出兵の際持ち帰り、豊臣秀吉の命令で奉納したと言われる。吉継は、秀吉の右腕として活躍し、「100万の大軍の軍配を預けてみたい」と言われるほどだったという。



常宮神社(じょうぐうじんじや)
敦賀市常宮13-11
☎0770-26-1040
料/国宝朝鮮鐘拝観料200円

戦乱の世の中で若狭を舞台に華々しく生きた二人の武将。今なお残る彼らの足跡をたどる。



朝鮮鐘(国宝)

全体に細身で青みがかった鐘。吉継による寄進説が有名だが、倭寇によって伝えられた説や留学した僧が持ち帰った説などもある。胴体部分には雲に乗る天女の姿も見られる。常宮神社内の一の鳥居も吉継によって寄贈されたものだ。

モデルコース12

- 北陸自動車道敦賀IC
←車で約8分
- みなとつるが山車会館
←車で約5分
- 永賞寺
←車で約5分
- 敦賀城跡石碑(敦賀西小学校)
←徒歩で約5分
- 八幡神社
←車で約15分
- 常宮神社
←車で約15分
- 西福寺
←車で約20分
- 若狭国吉城歴史資料館
←車で約7分
- 舞鶴若狭自動車道若狭美浜IC

おおたによしつぐ(1559-1600)
越前敦賀城主。裏切りが常の戦国の世に、盟友・石田三成らとともに七本槍に匹敵する「三振の太刀」と賞賛される大手柄を立てるなど、秀吉の右腕として活躍。業病を患い、晩年は頭を白い頭巾で隠していたと伝わる。

大谷吉継

栗屋勝久

あわや かつひさ(?-1585)
若狭守護の若狭武田氏の被官。朝倉氏による若狭支配時代にも、武田氏家臣として単独で国吉城に6年間に渡り籠城し、強力な朝倉軍団の猛攻に耐え、朝倉氏に対抗する。織田軍の一乗谷攻めの際には信長に協力。国吉城は信長の宿所となる。勝久は越前攻めで一乗谷一番乗り

西福寺(さいふくじ)
敦賀市原13-7 ☎0770-22-3926
開/AM9:00~PM5:00 休/無休 料/高校生以上300円

織田軍として一乗谷を攻めた戦利品がここに!
若狭で長く朝倉氏と対立していた、若狭国吉城主・栗屋勝久。元亀元年(1570)4月、織田信長が朝倉氏を討つため近江より越前に入ると、勝久の下に着陣した。勝久は信長を当城に迎えて朝倉討伐に参加し、その後信長家臣として各地を転戦する。一乗谷攻めの際には、勝久は戦利品として持ち帰った「八十一難経版木」を「西福寺」に寄進。現存する日本第二の医書印刷の版木である「八十一難経版木」は、中国の医学書の注釈本を元に医師である谷野一柏が校正を加えて出版したもの(福井県指定文化財)だ。

また、「五百体愛染明王図」と「青磁浮牡丹皿」を国吉城下の「青蓮寺」に寄進している。



伝栗屋勝久墓
徳賞寺(美浜町佐柿)

強力な朝倉軍との籠城戦を耐え抜いた山城!
国吉城は、今から450年ほど前に築かれた山城で、朝倉氏の侵攻を10年近くに渡って撃退し続け、後に信長、秀吉、家康の三英傑を迎え入れた。城跡側にある「若狭国吉城歴史資料館」では、さまざまな史料や発掘調査出土品を展示。模型や写真、パネルで国吉城と佐柿町の450年の歴史にふれることができる。

若狭国吉城歴史資料館(国吉城跡)
三方郡美浜町佐柿25-2 ☎0770-32-0050
開/AM9:00~PM5:00(12~3月はAM10:00~PM4:30)
※入館は閉館30分前まで
休/月曜、祝日の翌日、年末年始 料/一般100円

敦賀市内にある吉継ゆかりの地

居城だった敦賀城の跡地。
結城町の真願寺一帯から同寺南の敦賀西小学校周辺までが城域であったとされる。小学校前には存在を示す案内碑がある。



敦賀城跡石碑(敦賀西小学校)
敦賀市結城町8-6

茶壺や大鳥居、敦賀城の鬼瓦など吉継にまつわる物が多数。
吉継が寄進したとされる石の大鳥居があるほか、居城だった敦賀城の欄間や礎石、鬼瓦、茶壺、石灯籠、龍の彫刻など吉継にまつわるさまざまな歴史的遺産がある。



八幡神社
敦賀市三島町1-3-3
☎0770-22-1193
開/AM9:00~PM4:00(博物館)

吉継の菩提寺で供養塔も。
天文16年(1547)に開かれた天台宗の寺院。関ヶ原の戦いで壮絶な死を遂げた吉継を偲んで、慶長14年(1609)に造立された九輪の石塔がある(敦賀市指定文化財)。吉継生前からの菩提寺で、毎年9月には供養祭が行われ、熱心な吉継ファンが訪れる。



永賞寺(えいしょうじ)
敦賀市栄新町11-20
☎0770-22-1919

みなとつるが山車会館
敦賀市相生町7-6
☎0770-21-5570
開/AM10:00~PM5:00
休/月曜
(祝日の場合は開館、翌日休)
(祝日の翌日、9/1~9/5、年末年始)
料/一般300円



吉継の武者人形はここで展示!!

敦賀市の整備に大きな力を注いだ吉継は地元で絶大な人気を誇る。毎年9月に行われる敦賀市最大のイベント「敦賀まつり」で巡行する勇壮華麗な山車にも吉継の武者人形(右ペーじ)が乗り、街を練り歩く。「みなとつるが山車会館」では、この山車を収納し展示。常設展「敦賀城主大谷吉継展示コーナー」には、関連資料が展示され、オリジナルグッズも販売されている。

朝倉氏が治める越前の最南端で近江とを結ぶ要所。

【足壇城跡】 教賀市疋田 ☎0770-21-8686(教賀観光案内所)

朝倉家の家臣である疋壇対馬守久保が文明年間(1469~1487)に築いた城。近江から越前へ入る3つの街道が集まる交通の要所で、朝倉氏は越前国最南端の拠点として重要視していたと考えられている。しかし、元亀元年(1570)の信長による「越前攻め」で手筒山城を攻撃後、教賀郡司朝倉景恒が立て籠もっていた金ヶ崎城とともに破壊。信長が帰陣した後、朝倉氏によって修築し防衛を固めたのだが、天正元年(1573)の刀根坂の戦いで大敗した朝倉義景は、織田軍の追撃に遭いながら一旦この疋壇城に入ったが、信長の猛攻に支えきれず落城、完全に破壊された。

【玄蕃尾城跡(げんぼおじょうあと)】 教賀市刀根(中尾山) ☎0770-22-8167(教賀観光協会)

「賤ヶ岳の戦い」で勝家が本陣を置いた！ 福井と滋賀県境の中尾山(標高439m)の山上にあり、築城に関して諸説あるが、有力な説は、天正11年(1583)に柴田勝家が築城したというもの。賤ヶ岳の戦いで勝家はここに本陣を構え、北陸道と刀根坂の要所を抑えることができたという。横堀や土塁など、往時の遺構が良い状態で保存され遺っている貴重な城跡だ。

【後瀬山城跡】 ※P21参照 小浜市青井 ☎0770-53-1111(若狭おばま観光協会)

日本海屈指の港町 若狭小浜を望む山城。 大永2年(1522)、若狭守護武田元光が小浜市街地の南西側に位置する後瀬山に城を築城。慶長6年(1601)から京極家による小浜城の築城が開始されるまでの約80年間、歴代若狭国主の居城であった。山城は、山頂に主郭を配し、城郭北西部には強大な畝状堅堀や大規模な堅堀を築き、西部への防衛を密にした遺構配置となっており、度々確執を招く丹後・色氏を意識しての築造と見て取れる。永禄11年(1568)朝倉氏の侵攻によって武田元明が拉致されてから一時荒廃したが、織田信長家臣・丹羽長秀が城郭を再整備して居城した。以降は、浅野氏、木下氏と城主を代え、慶長5年(1600)関ヶ原の合戦での功績によって若狭一國を領した京極高次が入城したが、翌年、小浜城を築城・拠点を変えたことから廃城となった。

【国吉城跡】 三方郡美浜町佐柿 ☎0770-32-0050(若狭国吉城歴史資料館)

朝倉軍との籠城戦は約10年。難攻不落の城。 越前と若狭の国境に位置し、丹後街道を見下ろす通称「城山」(標高197m)に、若狭武田氏の重臣だった粟屋勝久によって築城された。永禄6年(1563)から毎年攻めてくる朝倉氏の軍勢に対し、絶大な籠城戦を展開。一度も落城しなかったことから、「難攻不落の城」とされる。元亀元年(1570)には織田信長が入城し、ここから最初の「越前攻め」に向かっている。

【今井城跡(いまいじょうあと)】 福井市小羽町 御城山古墳として県の指定文化財に認定。地形をうまく使った城だったことがわかる。

【村岡山城跡(むらこやまじょうあと)】 勝山市村岡町寺尾 一向一揆勢と平泉寺が戦った山城跡。山頂からふもとにかけ平坦地や堀、土塁などの遺構が分布し、保存状態も良い。

【戌山城跡】 大野市大山 大野市指定史跡。遺構の保存状態がとてもよく、必見の城跡。「天空の城」越前大野城の撮影ポイントでもある。

【杣山城跡】 南条郡南越前町阿久和 国指定史跡。ハイキングコースが整備されているため、歴史散策におすすめ。



厳しい道のりも 城跡をめぐる醍醐味。

戦国の

城めぐり

平城とは?

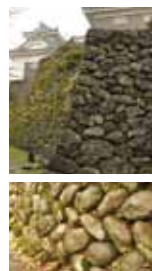
戦国時代の後期になると城は平地に城下町とともに整備されるようになる。常に戦に備える必要があることから山との往復が不便になり、大名の権威の象徴的意味合いでも目立つ場所に建てられるように。また、火縄銃からの防衛のため、堀や塀をめぐらし規模は巨大化していった。平野の中の山や丘に建てられたものは「平山城」に分類される。

織田信長家臣として越前の一向一揆を鎮圧した金森長近は、

天正3年(1575)越前国大野郡に所領を与えられ、天正4年(1576)から4年の歳月をかけて亀山に大野城を築城した。外堀と内堀、石垣を組み天守閣を構えるという、それまでの山城にはない方式の平山城だった。石垣は、自然の石を積み上げた「野面積み」という工法で、崩れにくく水はけがよい。現在の天守は昭和43年(1968)に再建されたもの。

城めぐりではココにも注目!

越前大野城に向かうまでの亀山の遊歩道を歩くと、整備された時代によって異なる石垣の積み方を見ることが出来る。ふもとの方は明治時代のもので抱えるぐらいの大きさの丸石を使用(写真下)。城の土台の石垣は江戸時代のもの。角ばった大きな石で、揺れに強い湾曲した積み方がわかる(写真上)。



信長の安土城にも劣らない 勝家による幻の城。

【丸岡城(まるおかじょう)】 坂井市丸岡城霞町1-59 ☎0776-66-0303 (霞ヶ城公園管理事務所) 開/AM8:30~PM5:00 (入場はPM4:30まで) 休/無休 料/一般300円

朝倉氏の滅亡後、越前を支配していた一向一揆を鎮圧した功績によって、織田信長の第一の家臣だった柴田勝家がこの地を拝領。天正3年(1575)築城を開始。その姿は、信長の安土城(7層)をしのぐ、9層だったという記録もある。天正11年(1583)、勝家は賤ヶ岳の戦いに敗れ、北庄城も秀吉軍に攻められ落城。未完成のまま落城したとも言われている。本丸跡と推定される場所は「柴田神社」となり、勝家、お市、浅井三姉妹の像がある。

【北庄城跡(きたのしょうじょうあと)】 福井市中央1-21-17 ☎0776-20-5346(福井市おもてなし観光推進室)

福井震災で落下した笄谷石製のしゃちほこは、ゆるキャラ系の佇まい。天守閣登り口の階段横で会える。

日本に現存する天守閣では最古。その造りはナゾも多い。 天正4年(1576)に、柴田勝家の甥である勝豊によって築城。初期の天守としての様式を多く備えた望楼型天守は、現存する天守閣としては日本最古のもので、国の重要文化財に指定されている。「葎ヶ城」との別名を持ち、満開の桜の中に浮かぶ姿は幻想的でひととき美しい。

福井県内には実に数多く残る山城跡。登山道が整備されているところもあるが、いずれもとりつまでの道のりは決して楽ではない。しかしこの姿は、敵の侵入を防ぐという、本来の目的を今に伝えているといえる。たとえ城の建物はなくとも、さまざまな歴史の現場となった在りし日の姿に想いを馳せながら歩く…。城跡には歴史を楽しむ醍醐味がある。

【碎導山城跡(さいちやまじょうあと)】 大飯郡高浜町宮崎 若狭一の勢力を誇った逸見氏の居城で、福井県内最大の山城跡。

Table with 2 columns: Model Course (モデルコース) and Castle Name (城名). Includes 14 and 13 model courses with distances and travel times.

明鏡洞 (めいきょうどう)

城山公園内にある「八穴の奇勝」と呼ばれる8つの自然洞穴のひとつ。洞窟の穴の向こうに見える水平線が鏡のように見えることからこの名が付いた。



若狭の水城。

鉄壁！
天然の要塞、

福井県指定史跡。酒井忠勝を祀る小浜神社がある。



全国でも珍しい、海を背にした城。

高浜城は、若狭湾に面する高浜町中央部の海岸線にあり、全国でも珍しい海を背にした城(右図参照)。現在は城山公園として整備されている。海に突き出た半島など自然の地形を巧みに利用して平山城と水城を兼ねた城であったと想像できる。永禄8年(1565)に、戦国の武略家だった逸見昌経が築城した。古くは、時の将軍・足利義満公も当地を訪れ、その景勝を愛でたと言われている。

40年かけて築城された難攻不落の水城。
雲浜城(うんぴんじょう)とも呼ばれた小浜市の水城で3重3階の天守を持っていた。関ヶ原の戦い前哨戦で活躍した京極高次が若狭に入国し小浜藩を立藩、小浜湾・北川・南川の三角州に築城を開始した(左図参照)。未完成のまま京極氏は松江藩へ移り、後の小浜藩主・酒井忠勝が完成させるまでにかかった歳月は実に40年。その後、明治4年(1871)の失火で天守以外を焼失、天守も売却撤去された。現在、城跡には小浜神社が建ち、本丸石垣を見ることが出来る。

若狭の水城と古式ゆかしい文化にふれる

仏像
都の影響を受けた
仏像が残る、
「文化財の宝庫」。
京に近く、海に面する若狭地方には、都の影響を受けて作られた数多くの仏像が残る。「海のある奈良」と呼ばれるこの地方は、さまざまな歴史と文化に彩られ、今なお時を超えて人々を魅了し続けている。



「若狭のみほとけ」をはじめ、若狭地方の歴史、民俗等に関する資料を展示する。

【福井県立若狭歴史博物館】
小浜市遠敷2-104 ☎0770-56-0525
開/AM9:00~PM5:00(入館はPM4:30まで)
休/年末年始、臨時休館有 料/一般300円

食文化
豊富な食材に恵まれた、
歴史的にも
重要な「御食国」。
古代より小浜は、朝廷に若狭の海の幸や塩を献上する「御食国(みけつくに)」の中心地だった。京の都に魚介を運ぶ鯖街道の出発点として栄え、また日本海航路の拠点として、各地の食が交流。質の高い郷土の食が形成されていった。



「食のまちづくり」の拠点施設。「食」に関するさまざまな魅力を展示や体験を通して実感できる博物館。

【御食国若狭おばま食文化館】
小浜市川崎3-4 ☎0770-53-1000
開/AM9:00~PM6:00(12~2月はPM5:00まで)
休/水曜(祝日の場合は開館)、年末年始
料/無料

中世エンタメ
当時の人々も熱狂!
日本初、象が、
小浜の浦に上陸。
小浜市は日本で初めて象がやってきた町。応永15年(1408)、象や孔雀などを乗せた南蛮船が現在のインドネシア・スマトラ島から小浜に入港、京の室町幕府将軍足利義持に献上された。



南蛮船が来航した港の様子
狩野内膳 南蛮屏風(リスボン国立古美術館蔵)

神事
毎年3月2日に行われる「お水送り」は、奈良と若狭が昔から深い関係にあったことを物語る歴史的な神事。

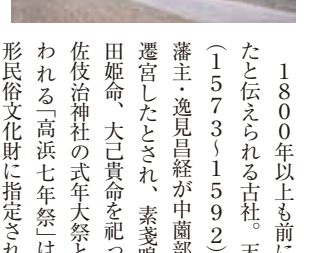
舞鶴若狭自動車道大飯高浜IC	舞鶴若狭自動車道小浜IC
←車で約13分	←車で約8分
佐伎治神社	小浜城跡
←車で約8分	←車で約5分
高浜城跡(城山公園)	御食国若狭おばま食文化館
←車で約40分	←車で約15分
神宮寺	福井県立若狭歴史博物館
←車で約10分	←車で約15分

建築
室町建築の先駆、
その華麗な姿。
毎年3月の「お水送り」が有名。その本堂は、室町時代末期に朝倉義景によって再建された。和様を主体にした中に、木鼻に天竺様線形、唐様束梁などの大陸の技法が用いられており、今もその華麗な姿を見ることが出来る。



【神宮寺】
小浜市神宮寺30-4 ☎0770-56-1911
開/AM9:00~PM4:00
料/一般400円

古社
「高浜七年祭」が行われる、古の社。
1800年以上も前に創建したと伝えられる古社。天正年間(1573~1592)に高浜藩主・逸見昌経が中蘭部村から遷宮したとされ、素戔嗚尊・稲田姫命、大己貴命を祀っている。佐伎治神社の式年大祭として行われる「高浜七年祭」は、県無形民俗文化財に指定されている。



「高浜七年祭」は巳年と亥年の7年ごとの6月に行われる。次回開催は平成31年(2019年)。

【佐伎治神社(さきぢんじや)】
大飯郡高浜町宮崎59-3
☎0770-72-0041
開/AM9:00~PM4:00 料/参拝無料

海に抱かれた歴史と文化のまち・若狭。
多様な文化が行き交うまちに思いを馳せてめぐる。

姫穴

義貞に会うため
京から戻る
途中、追手が迫る…!

「姫穴」と呼ばれる断崖にぽっかりと開いた空洞がある。「太平記」によれば新田義貞の妻・勾当内侍が義貞に会うため京を発ち、杣山城へ入った。その際迫る敵から逃れるために身を潜めたといわれるのがこの岩窟。逃げ延びた内侍であったが、義貞の戦死を知りその悲しみの果てに尼になったとされている。

❑ 杣山城跡
南条郡南越前町阿久和61-34
☎0778-47-8005(南越前町教育委員会)

朝倉街道



❑ 朝倉街道 現在の南越前町～坂井市丸岡町

朝倉氏の大動脈!
越前統治の礎となる。
北陸道とともに越前を南北に縦貫する朝倉街道。ルートについては諸説あるが、中世、物資輸送や軍用路として、朝倉氏が整備したと言われている。



❑ 一乗谷城跡
宿直跡からの眺望
福井・坂井平野を一望できる一乗城山の山頂部に築城された城。日本で最も敵状堅堀が多いとされる堅固な城。

一乗谷城 & 遠見遮断方式

400年の時を経て…
復原された戦いの知恵。
復原町並は発掘調査で出た遺構に基づいて現地で立体的に復原したもので、南北200mの道路を中心に大小の屋敷や町屋で構成される町並が復原されている。この復原町並の道路を「遠見遮断方式」と言われる、敵が攻めてきた時に、敵からは見えにくく、味方はよく見通せるといふ構造と時代の知恵をよく理解することができる。

武家屋敷のトイレ
復原町並の武家屋敷にあるトイレは、すべて前向きに作られている。戦国動乱期において、何かあった時にすぐに動けるようにするための知恵だ。



❑ 一乗谷朝倉氏遺跡 復原町並
福井市城戸ノ内町28-37
☎0776-41-2330(朝倉氏遺跡保存協会)
開/AM9:00~PM5:00(入場はPM4:30まで)
休/年末年始
料/一般210円
(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館との共通券230円)

乱世をくぐり抜けた

知恵 & 機転

度重なる合戦・裏切り…。
乱世を生き抜くための、
さまざまなアイデアは、
現代にも通じるものがある?



足羽川近くにある柴田神社(柴田勝家を主祭神とし、妻のお市の方を配祀する神社)にある勝家の像。

福井市立郷土歴史博物館には、九十九橋の原寸大模型や半石半木の様子がよくわかる九十九橋周辺の再現模型なども展示されている。

半石半木

勝家による橋は
半石半木で半石が石造。その理由は?

北庄城を築いた柴田勝家によって足羽川に架けられた九十九橋(つくもばし)は北半分が木造、南半分が石造りという構造だった。その理由には、敵が攻め込んだ際に城下町に近い木造部分の橋を焼き払うことでその侵入を防げること、再建費用も半分で済むこと、さらに洪水での橋の流出も半分で済むことなど諸説ある。

❑ 福井市立郷土歴史博物館
福井市宝永3-12-1
☎0776-21-0489
開/AM9:00~PM7:00(入館は閉館30分前まで)
※11/6~2/28はPM5:00まで
休/年末年始、その他臨時休館有
料/一般210円(養浩館庭園との共通券340円)



小豆袋



兄・信長のピンチを小豆の小袋で知らせる。
浅井長政に嫁いでいたお市の方が敵対する進軍中の兄・織田信長に送ったのは、信長の好物小豆を袋に入れ、その両端を縄で括って結び切りにしたもの。これは信長の軍が袋の小豆と同じように、前後を固く真結びに結ばれて、一粒たりと脱出することができない状況にあることを暗に示していた。長政の謀反により朝倉軍と挟み撃ちになることを知った信長は、急ぎ京都に引き返し難を逃れる(「金ヶ崎の退き口」と言われる信長の撤退戦。今や敵中にあるお市の機転が兄を救ったと言われている。

金ヶ崎城跡そばの金崎宮にある、お市の小豆袋を模した「難関突破守」(小豆袋守)。敵しい状況乗り越えたい時に。

モデルコース 16

北陸自動車道福井IC	一車で約15分
福井市立郷土歴史博物館	一車で約25分
一乗谷朝倉氏遺跡復原町並	一車で約60分
杣山城跡	一車で約10分
北陸自動車道今庄IC	一車で約25分
北陸自動車道敦賀IC	一車で約10分
金崎宮	一車で約5分
清明神社	一車で約10分
北陸自動車道敦賀IC	一車で約10分

❑ 金崎宮
敦賀市金ヶ崎町1-4
☎0770-22-0938

お市の方画像(高野山持明院蔵)



清明ゆかりの品が眠る場所!
平安時代の陰陽師・安倍清明が用いた祈念石を祀る神社。南北朝時代の金ヶ崎戦、さらには織田信長と朝倉氏との戦火から逃れ、いずれもその付近で鎮まったという逸話もあり、以来、防火の神として信仰を集める。

❑ 清明神社
敦賀市相生町8-20
☎0770-22-8686(敦賀観光案内所)
開/AM8:00~PM5:00



朝倉義景画像(心月寺蔵)

戦の息づかいを間近に感じる。

新田義貞の兜
兜が発見された付近で義貞が戦死していることや、宮中を守護するという三十番の神号が沈刻してあることが決め手となり、福井藩士の井原番右衛門が新田義貞のものとして鑑定した。(藤島神社蔵 / 福井市立郷土歴史博物館寄託)



古くから数々の戦の舞台となった越前・若狭。

今も残る武具の数々は、戦乱の凄まじさを物語り、激戦の様相を伝えてくれる。



馬面貞生作六十二間星兜(個人蔵)
すぐれた鍛冶師を輩出した豊原地区。全面に鉄の付いた「星兜」が伝わる。

坂井市丸岡歴史民俗資料館
坂井市丸岡町霞4-12 ☎0776-67-0001
開 / AM8:30~PM5:00 (入館はPM4:30まで)
休 / 年末年始
料 / 一般300円(丸岡城と共通券)

**越前僧兵の精鋭、
「豊原三千坊」の拠点。**

平泉寺と並び白山信仰の拠点として繁栄した豊原寺。中世には「豊原三千坊」と呼ばれるほど、数多くの坊院が建ち並んでいた。応仁の乱の越前制圧戦のときなどは反朝倉だったが、次第に朝倉氏に味方する者が増え、ついに「豊原・平泉寺、心替わりして朝倉方になりおわんぬ」と記されたように、平泉寺とともに争乱では必ず活躍し、朝倉氏を勝利に導いた。朝倉滅亡後は大坂本願寺の領国となり、坊・下間法橋が一向一揆の主導者となつて豊原を本拠とした。このため、天正3年(1573)織田信長による越前の一向一揆制圧で、全山焼失となった。



義景の兜
黒漆塗総覆輪二十四間阿古陀形筋兜鉢
(井伊美術館蔵 / 福井市立郷土歴史博物館寄託)

朝倉氏の
無念が
伝わる

朝倉家伝来と伝えられる胴丸
黒韋威胴丸(井伊美術館蔵 / 福井市立郷土歴史博物館寄託)

波に鮑の前立て(個人蔵)
朝倉氏の氏神の象徴として表現したもので、兜の飾りとして使用していた。



**激戦のこの地で戦死した、
新田義貞の兜が眠る。**

南北朝時代に活躍した武将、新田義貞を祭神として祀る藤島神社。明暦年間(1655~1658)に発見された兜は、新田義貞のものとして、宝物として大切に保管されている。また、万治元年(1660)、福井藩主・松平光通は兜が発見された場所に「新田義貞戦死此所」の碑を建て、その場所は「新田塚」と呼ばれるようになった。現在の境内は、兜の発見地から南へ3kmほど離れている。

燈明寺隣新田義貞戦没伝説地
(とうみょうじなわてにったよしさだせんぼつでんせつち)
福井市新田塚町



刀装具の一つ「目貫(めぬぎ)」
朝倉氏遺跡出土品
(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館蔵)

鉄砲関連遺物や刀剣などの武器武具類
(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館蔵)



兜の鍬形台
国指定重要文化財。朝倉氏遺跡の中の御殿と諏訪館跡の間から出土。眉底の一部と鍬形台が原形のまま残っている。当時の武具を知る大変貴重な品。
(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館蔵)



福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館
福井市安波賀町4-10 ☎0776-41-2301
開 / AM9:00~PM5:00 休 / 年末年始、臨時休館有
料 / 一般100円(復原町並との共通券230円)

強大な権力を持つ朝倉氏は、火縄銃を製作していた!
一乗谷朝倉氏遺跡資料館には遺跡で発見された火縄銃の部品やつば、鉛地金、弾丸などの鉄砲関連遺物が展示されている。つばに入った弾丸は、落着いたままの状態、弾丸製作の工程を示すと考えられている。これらが出土した場所は、遺跡の中で付近の職人の町屋より規模が大きいことから、鉄砲に関わる職人頭の家ではないかと言われている。

全国の
貴重な武具が
見られる!

時代を超えて、歴史を語る。
貴重な武具たち。

全国から収集された甲冑、変わり兜、火縄銃、刀剣、印籠など貴重な武具を見ることが出来る。江戸期の諸大名が所持したものが中心だが、鎌倉、南北朝、室町、桃山期のものも含まれる。合戦図屏風なども展示。



勝山城博物館
勝山市平泉寺町平泉寺85-26-1
☎0779-88-6200
開 / AM9:30~PM4:30
休 / 水曜、年末年始
料 / 一般500円

戦いの息づかいを感じる トピックス

激戦の跡を感じる

永正3年(1506)に土一揆、一向宗、甲斐浪人らが一斉蜂起し、やがて30万人の大軍となった一揆勢力が九頭竜川をはさんで、朝倉宗満を総大将とする朝倉軍と全面的に対峙し激戦となった。一乗谷朝倉氏3代貞景は、この一揆を撃退した後、吉崎御坊をはじめ越前の本願寺派の拠点寺院を破却して門徒を追放し、所領を没収し、加賀国境を封鎖。長崎城(現在の称念寺)に監視を置いたが、その後も争いは何十年も続いた。



九頭竜川
「中角」「高木」「中ノ郷」「鳴鹿」の4カ所で戦があった。

朝倉氏、戦時の心のよりどころ



湊八幡神社
福井市照手4-1-25
☎0776-23-2974



神社が伝える“戦国の祈り”

朝倉孝景は、八幡神・摩利支天に対し軍神として強い崇拝の念を持っていた。文明3年(1471)に、宇佐八幡宮の分霊を一乗谷城戸の内へ勧請し、社殿を建立したとされ、朝倉家代々の信仰と崇敬を受けてきた神社。江戸時代に北庄に遷された。

峠で敵を防ぐ

木ノ芽峠は古来から越前に入る道として要衝の地であり、北陸道の関門にあたる。峠を挟み、複数の城壁が整備され、古くから戦の舞台となった。朝倉義景もこの地を重視し、織田信長の越前侵攻に備えて城塞群を築く(改修した)と伝わる。朝倉氏滅亡後は一向一揆の拠点となり、織田軍の猛攻により落城。柴田勝家の越前支配からは、新たな道の建設によって木ノ芽峠城塞群の重要性は薄れ廃城となった。



木ノ芽峠城砦群
南条郡南越前町板取

北陸自動車道丸岡IC	一車で約6分
坂井市丸岡歴史民俗資料館	一車で約45分
勝山城博物館	一車で約45分
福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	一車で約30分
燈明寺隣新田義貞戦没伝説地	一車で約10分
湊八幡神社	一車で約90分
木ノ芽峠城砦群	一車で40分
北陸自動車道今庄IC	

モデルコース
17

中世の一大宗教都市

□ 拜殿
最盛期の建物の幅は諸説あり、一説では約83mとも言われている。現在も礎石の一部が残る。

約440年前に焼失したのは日本有数の一大宗教都市だった…!!

平成に入り発掘調査が進められ、石畳や僧侶の住居の坊院跡など、数々の遺構が残っていることが判明。栄華を誇ったかつての姿が少しずつ明らかになっており、これからも数多くの歴史ロマンを教えてくれるに違いない。

今から約1300年前の養老元年(717)に泰澄によって開かれた白山平泉寺。白山信仰の拠点寺院として、中世に最も発展し、日本国一番の法師大名と言われた坊院をはじめ、48社、36堂、6000坊が存在した巨大宗教都市となっていた。朝倉氏のもとで、自立した支配権を持ち、軍事的に朝倉氏を支援することもあったが、信長と朝倉氏の最期の決戦では、信長に味方している。

しかし、朝倉氏滅亡後の天正2年(1574)、平泉寺は一向宗徒によって焼き払われた。一夜にして灰になったとも言われ、一向揆勢力の凄まじさを物語っている。

◆ 本社
白山には山頂が3つあるので、それぞれの神を祀る社が並ぶ。真ん中の本社では白山の主峰である御前峰の神を祀っている。

◆ 中世の石畳
境内の南側からは僧侶が住んでいた坊院跡が数多く見つかっている。周辺の石畳道や石組みの側溝などからは、高度な土木技術がうかがえる。



タッチパネルや映像、発掘調査で出土した遺物などで、白山平泉寺の歴史や見どころを紹介

◆ 白山平泉寺歴史探遊館 まほろば
勝山市平泉寺町平泉寺66-2-12
☎0779-87-6001
開 / AM9:00~PM5:00 (入館はPM4:30まで)
料 / 無料
休 / 水曜(祝日の場合は翌日休)、年末年始



◆ 御手洗池
「平泉寺」の名の由来となった泉。ここから現れた女神のお告げで、泰澄はこの場所に社を建てたとされている。泰澄が植えたと言伝わる御神木の杉も残る。

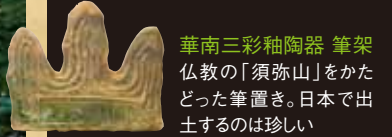


◆ 謀反岩
兄弟の僧が本社の石垣に使う石の大きさを競い合い、この場の岩を掘り起こそうとしたところで、朝倉義景によって争いを収められたという。後に兄弟不仲となって、兄が弟を滅ぼしたことから「謀反岩」と言う。



青白磁 観音像
中国の元時代に景德鎮で作られたもの

杓子
中世の杓子の特徴を表す形。食器類は数多く出土



華南三彩釉陶器 筆架
仏教の「須弥山」をかたどった筆置き。日本で出土するのは珍しい



平泉寺の壮大な歴史をマンガに。さまざまな歴史の舞台となっていたことが分かる。平泉寺町まちづくり推進協議会発行 / 1200円

◆ 若宮八幡宮の大杉
「平泉寺7本杉」のひとつ。天正2年(1574)の一向宗徒による全山焼失に耐えて残ったと言われている。



◆ 村岡山(御立山)
勝山市村岡町寺尾



村岡山城跡へ向かう道中には、写真のように恐竜博物館を望むことができる

ひと足
のぼして

平泉寺の敗北が「勝山」の地名の由来に。

福井県立恐竜博物館近くの「村岡山(御立山)」。ここに白山平泉寺と対立していた一向一揆勢は村岡山城を築く。この軍勢と対峙する隙をつかれ、白山平泉寺は焼き討ちに。勝った一向一揆勢がこの山を「勝山」と呼ぶようになったことが現在の地名の由来となった。

- 北陸自動車道福井北IC ←車で約45分
- 白山平泉寺 ←徒歩で約1分
- まほろば ←車で約15分
- 村岡山(御立山) ←車で約40分
- 北陸自動車道福井北IC

平泉寺

(国史跡)

◆ 参道
杉と苔の緑が美しい参道。「日本の道100選」にも選ばれている。

浄土真宗布教の拠点で

感じる蓮如の想い

蓮如上人による
布教期間はわずか4年—
「真宗王国 越前」の起源を探る。



布教の地を求め蓮如が歩んだ240キロ…。
その京都～吉崎にわたる蓮如の足跡をたどる。

応仁・文明の乱の最中、一乗谷初代・朝倉孝景が幕府に越前支配を認められ我が国初の戦国大名となってその名を世に轟かせた文明3年(1471)。蓮如上人は、近江を去って越前の吉崎(現在のあわら市)に下向した。4年間の越前滞在で何が起ったのか。ナムアミダブツを唱えれば、極楽に往生できるという真宗の教えは、民衆にとってわかりやすく、「蓮如」という偉大な組織指導者を得て、主に農民層に多くの信者を獲得していった。やがて、農民たちのエネルギーは必ずしも蓮如の思うように統制されなくなり、その結果、世界史上にも類を見ないと言われるほどの宗教的戦争・一向一揆へと発展していった。

ナムアミダブツの響きとともに
この地に根付いた念仏の教え。

「浄土真宗」の中興の祖である蓮如上人。その出発点となったのが「吉崎御坊」である。当時の吉崎は日本海と北潟湖に囲まれた水運の要所ではあったものの、辺境の丘陵地であった。ここに蓮如は文明3年(1471)に坊舎を築いた。一説には、一乗谷初代・朝倉孝景が、蓮如上人にお寺の材料や人夫、米銭、そして土地を寄進したとも伝えられている。蓮如が生死をかけた布教活動の結果、「蓮如ブーム」と言われる奇跡を引き起こす。参拝者の宿が建ち並び、無人だった山が大都市に変貌したという。しかしその急激な発展は政治の均衡を崩し、わずか4年で蓮如は吉崎を去り都に戻ることとなってしまった。だが、その残された念仏の教えは消えることなく大輪の花を咲かせ続ける。ここ「吉崎御坊」は、宗教界の風雲児の壮大な想いを感じることができる場所なのだ。

写真左は吉崎御坊跡の全景。

公園内に今なお残る
蓮如が過ごした証たち。

蓮如公園には蓮如上人に思いを馳せることのできる数々のものがある。高村光雲の四大作の一つでもある蓮如像や、ここ吉崎に御坊を立てた際に直接植えられたという松の根本も残っている。この公園からの景色は蓮如が好んで眺めていたとも言われている。



蓮如が存命の時から吉崎御坊の中にあった石。ここに腰掛け二人の弟子を伴う絵が残っている。

吉崎御坊(よしぎきごぼう)(国史跡)
あわら市吉崎1-901
☎0776-75-2222
(吉崎御坊蓮如上人記念館)

庭園をめぐる体感できる蓮如の説いた教えとは…。
記念館では布教の際に使用されていた「御文」が紹介されるほか、蓮如上人の直筆御名号、絵像、絵伝など、その足跡に直にふれることができる。また、回遊庭園では往生のために重要なことが表現されている。数少ない桃山様式の高廊下風庭見台から眺める北潟湖の景勝も必見。

村人たちが切り拓いた
信仰の道。

蓮如上人が布教で吉崎に向かう時に最大の難所だった場所。ノコギリの歯のような険しい坂は裸足で登らなければ転倒するほどだったとか。この道は、明治時代に入ってから、近くの村々の人の手によって3カ月かけて整備したもの。その岩肌からは人々の信仰にかける強いエネルギーを感じられる。

細呂木関所跡
(ほそろぎせきしよあと)

北陸道の加賀国や吉崎に通じる交通の要所。ここから北に向かうと「このござり坂」や吉崎道へと通じる。

吉崎御坊蓮如上人記念館

あわら市吉崎1-901 ☎0776-75-2222
開/AM9:00~PM5:00
休/木曜(祝日の場合、前日水曜休)、年末年始(12/28~1/2)※GWは無休料/一般500円

鳴谷山の切り通し
(しぎたにやまのきりとおし)

「吉崎山古絵図」には
蓮如がいた当時の吉崎が
描かれている!



吉崎山古絵図[写]
(あわら市郷土歴史資料館蔵)
蓮如上人がいた当時の吉崎の様子を知ることができる貴重な資料

蓮如

れんによ(1415-1499)

浄土真宗の教義を「御文」という手紙の形式でわかりやすく説くという独自の布教活動を展開。他宗や権力者などと軋轢を解消すべく吉崎を去った後、ついに京都にて本願寺の再興を果たす。まさに今日の本願寺教団の基盤を築いた人物。

あわら市郷土歴史資料館

あわら市春宮2-14-1(金津本陣IKOSSA 2F)
☎0776-73-5158
開/AM9:30~PM6:00(入館はPM5:30まで)
休/毎週月曜日、毎月第4木曜日
(いずれも祝日の場合は開館、翌日休)、
年末年始(12/29~1/3) 料/無料

- 北陸自動車道加賀IC
一車で約10分
- 吉崎御坊蓮如上人記念館
一徒歩で約3分
- 吉崎御坊蓮如公園
一車で約5分
- 鳴谷山の切り通し
一車で約5分
- 細呂木関所跡
一車で約12分
- あわら市郷土歴史資料館
一車で約15分
- 北陸自動車道金津IC

モデルコース
19



四季折々の美しさを見せてくれる庭園は、昭和4年に福井県で最初に国の名勝庭園の指定を受けた。

歴代の武将が訪れた
景観美しき古刹。

永和元年(1375)、睿憲上人によって創建された、真言宗智山派の寺院。朝倉氏をはじめ、柴田勝家、福井藩主の松平家、丸岡藩主の有馬家らが祈願所としていた寺である。

歴代の領主たちが訪れた参道は凛とした空気に包まれ、境内は9つの石を心の字に配した石庭や本堂奥にある山水庭園(国指定名勝庭園の一つ)などがある。また、国宝や国指定重要文化財を多数所蔵。室町時代中期以前の星図として現存唯一の遺品とされる一乗谷4代朝倉孝景寄進の天之図(星座)のほか、勝家が寄進したとされる鐘樓門など見所も多い。



❑ 瀧谷寺(たきだんじ)
坂井市三国町瀧谷1-7-15
☎0776-82-0216
開/AM8:00~PM5:00
(11~2月はPM4:30まで)
休/年中無休 料/一般300円

戦国の中世の大規模 寺社の祈り&

戦国の中世の大規模 寺社の祈り&



坐禅や写経、
参籠体験も可能!

永平寺では坐禅や写経体験の他、1泊2日(2食付)の参籠体験も可能。夕方から早朝にかけて、坐禅や法話体験、朝課、食事など禅の心にふられる貴重な体験。
料/坐禅・法話体験1,000円、参籠体験8,000円(いずれも団体の場合は異なる)

❑ 大本山 永平寺
吉田郡永平寺町志比5-15
☎0776-63-3102(総受処)
開/AM8:30~PM5:00
休/年中無休
料/500円



現在も雲水と呼ばれる、約200名の修行僧が早朝からの厳しい修行に励む、日本最大の修業道場となっている。

日本仏教の革命児道元が
開いた曹洞宗の大本山。

寛元2年(1244)に道元禅師によって開創された出家参禅の道場。七堂伽藍を中心に、大小70余棟の殿堂楼閣が建ち並ぶ、日本一の曹洞宗大本山である。

道元は1200年京都に生まれる。24歳の時に中国に渡り「坐禅」という教えを受け継ぎ帰国。京都に道場を開き、「修証一如(無限の修行こそが成仏である)」という自らの考えに基づき、「只管打坐(ひたすら座禅する)姿勢を重視した。次第に名声も高まり一方で外圧も加わるようになり、越前志比庄地頭波多野義重のすすめで越前に移り、永平寺を建立した。建立以来数度の大火に遭ったが、その都度再興されて現在に至る。

越前国の「宮」として
勢力を誇った北陸の総鎮守。

敦賀は、古代朝鮮半島の国の王子・都怒我阿羅斯等(ツヌガアラシト)が、この地に到着したことに由来し、古くから「つぬが」と呼ばれ、天然の良港を持つ物資輸送の入り口であり、要衝として発展した。氣比神宮は大宝2年(702)、仲哀天皇の代にこの地に創建されたと伝わる。仲哀天皇は六座を祀る北陸道の総鎮守で、高さ約11mの木造朱塗の大鳥居は小浜藩主・酒井忠勝が天保2年(1831)に寄進したもので、国の重要文化財に指定されている。古代から中世にかけて越前国一の宮として勢力を誇り、朝倉氏の台頭後はその支配下にあった。元亀元年(1570)の織田信長の越前侵攻に際しては、氣比社の社家達は朝倉軍と運命を共にし、戦災によって大きな打撃を受けたが、その後は越前藩主結城秀康ら歴代藩主や、敦賀の町の人々の援助を受け復興を遂げる。境内には「長命水」と呼ばれる湧水もあり、パワースポットとしての人気も高い。

境内には「おくのほそ道」で松尾芭蕉が立ち寄った場所として、松尾芭蕉の像と句碑がある。



氣比社古図(氣比神宮蔵)

❑ 氣比神宮(けひじんぐう)
敦賀市曙町11-68
☎0770-22-0794(社務所)
開/AM6:00~PM5:00
休/年中無休
料/無料

モデルコース
20

北陸自動車道 金津IC	←車で約20分	瀧谷寺
大本山永平寺	←車で約60分	大本山永平寺
吉峰寺	←車で約30分	吉峰寺
氣比神宮	←車で約8分	氣比神宮
北陸自動車道 敦賀IC	←車で約5分	北陸自動車道 敦賀IC
北陸自動車道 福井北IC	←車で約45分	北陸自動車道 福井北IC
中部縦貫自動車道 永平寺参道IC	←車で約10分	中部縦貫自動車道 永平寺参道IC



道元禅師画像(宝慶寺蔵)



吉峰寺の法堂の裏手には、かつて道元禅師がここで坐禅を組んだと伝えられている「坐禅石」がある。

越前に訪れた道元が
最初に拠点とした寺。

寛元元年(1243)、曹洞宗の開祖である道元禅師が永平寺を開く前、越前志比庄地頭・波多野義重の勧請を受け、京都から移ったのち修行の道場としたのがこの吉峰寺。境内には本堂、開山堂、仏心閣等が建ち並ぶ。道元が生涯をかけて著したとされる、仏道の根源を説いた「正法眼蔵」も、この場所での多くを著したと言われている。

老木に囲まれひっそりと佇む姿は訪れる人の心を清らかにさせてくれる。紅葉シーズンには鮮やかな色合いを魅せる。

動乱の世を生き抜く
人々の想いと葛藤。
戦国の時代に何を祈る...



祖跡コースの出発点。道元禅師が永平寺に入るときに歩いたとされる吉峰寺から永平寺までの約三里半の山路コース。



❑ 吉峰寺(きっぽうじ)
吉田郡永平寺町吉峰35-2 ☎0776-64-2536

ふくい戦国豆知識

各地の大名が、天下取りに野心を燃やし、領地の奪い合いに明け暮れた時代。一乗谷は平和で、華やかな文化が開花していた。当時の人々の暮らしはどのようなものだったのだろうか。戦において守りの要となる城の造りは？攻めの陣形って何？ 知ればますます歴史が好きになる“戦国ふくい豆知識”を紹介しよう。

個性豊かな城の形式 当時の城を4つに分類



一乗谷城跡(宿直跡)からの眺望

平山城

領地を治めるための拠点として、なだらかな丘陵地などに築かれた城。戦国時代終盤から多く築かれた。「丘城」とも呼ばれる。石垣を築いて大きな天守閣を持つ城もあつた。丸岡城がこの形式を用いている。

平城(ひらじょう)

平地に築かれた城。戦乱が落ち着いて江戶時代初期に多く築かれた。城下町の政庁としての機能を持っていた。福井城が平城にあたる。中世は「ひらじょう」と呼んでいた。

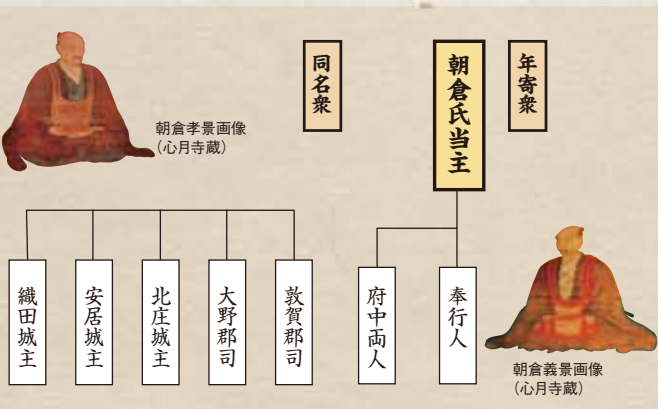
水城

河川や海、湖の水辺に城を築き、天然の水堀として防衛力を高めた。浮城とも呼ばれていた。雲浜城と呼ばれた小浜城がこれにあたる。

一乗谷・朝倉氏の領国支配組織

朝倉氏の重臣は「年寄衆」と呼ばれ、彼らが合議して朝倉家の政策を進めていた。また、武家に使える「奉行人」は限られた家柄のものが付くことを許されていた。「府中兩人」は府中を中心とする武生盆地周辺の領域的支配を担当。当主の指示に従って行政処理を行ったが、惣社

朝倉氏の領国支配体制



知って楽しい山城単語・日本全国には5万か所近くあつた?! 戦国の城一乗谷城でわかる 防御のしくみ!



曲輪

人工的に山肌を削平して土塁や堀などを設けて区画したところで、虎口(こぐち)という出入口を門で封鎖する。中心的な曲輪は、一の丸・二の丸・三の丸といった名前が付いている。主要な城司は指令本所となる城主の居所となつて最終防衛線となる。

畝状堅堀

(うねじょうたてぼり) 斜面に対して縦に造られた堀が横に連続しているところ。敵の侵入を困難にするためのも。一乗城山に設けられた畝状堅堀の数は約140条あり、日本最多級と言われている。

堀切

(ほりきり) 尾根を仕切るように作られた防壁のための堀をいう。

伏兵穴

(くへいあな) 侵入してきた敵を不意打ちするために潜む穴。

馬出

(うまだし) 入口への侵入を困難にさせるために入口の前に設けた平場。射撃陣地としての防御のほか、出撃にも使用。巨大なものも存在する。形も半円や四角いものがある。

千畳敷

(せんじょうじき) 山上に近い山腹に広い平坦地を造つて、大きな館を建てたところ。主郭として城主の居所となつた。

櫓

(やぐら) 曲輪の近くなどに建てて物見や攻撃ができる。月見を目的としたと言われる櫓「月見櫓」もある。

用水確保が死活問題

この時代、農業用水の確保が庶民の生活において最も重要な要素。朝倉氏は「用水について」の訴訟がしばしばあつた。朝倉氏は九頭竜川から坂井平野北部を灌漑する「十郷用水」、足羽川の「徳光用水」・「酒生用水」などを直接支配し、量を規制し不公平な管理していた。領地でのくすぶる怒めしていた。



鳴鹿周辺の九頭竜川から取水するために造られた堰「越中三叉(えっちゅうさんざ)」(九頭竜川地域防災センター(永平寺町)の展示から)

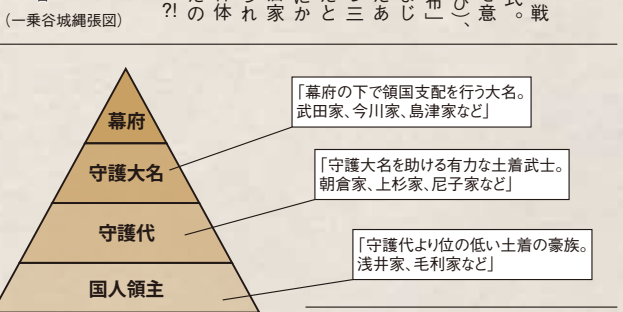
戦国時代の人々はどうだったのか?

暮らしがぶりだったのか? 大都会だった一乗谷の暮らしがぶりとは? 越前国では蟹や鱈、サザエ、鮑、鴨、白鳥など高級食材が豊富に獲れ、將軍に献上したりしていた。また、一乗谷からはそれらの骨や貝が出土しており、ハレの日の食膳にあがっていたようだ。青磁鉢、皿、白磁皿、染付碗皿などの高価な食器や豊富な食材が流通していたが、主食はコメで日に入「食」して、日(普段)は、ご飯をたくさん食べていたようだ。



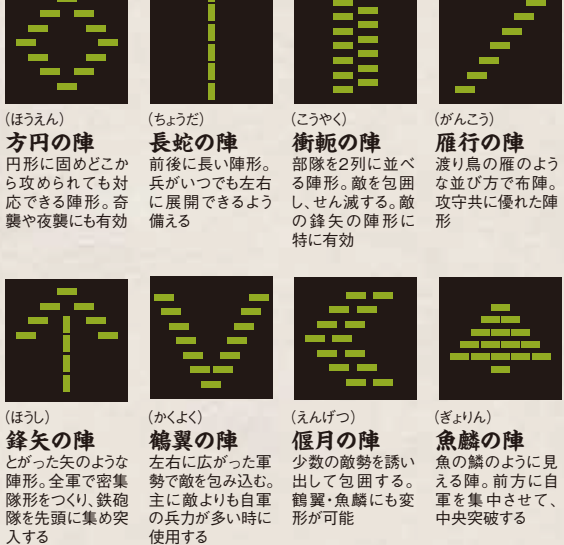
染付蓮池魚草文大皿(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館蔵)

合戦で勝利を願う三献の儀
出陣を前にした対象が戦での勝利を願う儀式。「打つて、勝つて、喜ぶ」を意味する「打鮑(うちあわび)」、勝栗(かちぐり)・昆布(いわたけ)を食した。迷信やまじないを敬遠していたあの織田信長ですら三献の儀は行っていたといわれている。三献の儀にかかせない「鮑」だが、朝倉家当主は、昔、鮑に助けられたことから、鮑を御神体として祀っていたので食べなかつた?!



戦国時代のルール軍記軍律
武將たちが手柄を上げようと駆け駆けするものや、規律を守らないものを取り締まるために制定した軍記・軍律。さらに「一乗谷初代朝倉孝景は『英林壁書(朝倉孝景条々)』という分国法で朝倉家訓をもつて国を治める基本とした。

効率よく攻め守れ! 陣形の基本
戦国時代、大軍を効率よく配置し勝利を目指すため、合戦の際は兵に陣形を組ませて挑んだ。陣形の基本は八つあり「八陣」と呼ばれている。三国志で有名な諸葛孔明が考案した「諸葛亮八陣」を吉備真備が日本で初めて伝えたとされている。



甲冑製造

戦国時代には地侍クラスでも甲冑を着用していた。それらを製作する職人たちが大勢いた。朝倉氏遺跡からも皮製で黒漆で固められた大袖が出土している。革製品も需要が高く、



大袖(中世の鎧(よろい)付属の袖。幅が広く、大きく、鎧の肩から垂らして、盾の代用としたもの)(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館蔵)

信長を包囲せよ!

戦国時代勢力を拡大し続ける織田信長と対立した大名は、周辺勢力や各地の諸大名と結託して織田家による天下

第二次包囲網

織田信長に庇護されていた足利義昭が、自身の待遇に不満を持ち、各地の大名や周辺勢力と密かに話を通じる。浅井朝倉、三好といった従来の大名や本願寺教団に加え、東国の武田信玄をも加わった。

第三次包囲網

第二次包囲網の瓦解により追放された足利義昭が、毛利家の領国へと落ち延びて再決起を図った史上最大規模の包囲網。

●元龜2年(1571) 元龜4年(1573) 天正4年(1576) 天正10年(1582)

観光ボランティアガイド一覽



お問い合わせ先

福井県観光ボランティアガイド連絡協議会
〒910-0003 福井市松本3丁目16-10 福井県職員会館ビル1階 (公社) 福井県観光連盟内 TEL.0776-23-3677

ボランティア名	予約可能人数	予約締切	料金 (ガイド1人あたり)	連絡先	受付時間	スタンダードコース	
福井・三国あわらエリア	NPO法人 ボランティアガイド きたまえ三国	1名様より	1週間前	無料 (ただし交通費として1,500円)	岸名家 tel.0776-82-0947 fax.0776-82-7392	9:00~17:00 (水曜日休館日)	所要時間/各90分 ●高見順生家跡→金鳳寺→旧岸名家→三国湊町家跡→旧森田銀行→元大野屋→松ヶ下西光寺 ●荒磯遊歩道→東尋坊→雄島
	丸岡観光 ボランティアガイド	1名様より	1週間前	無料	霞ヶ城公園管理事務所 tel.0776-66-0303 fax.0776-66-0678	9:00~16:00	所要時間/60分 ●丸岡城周辺散策
	福井市 歴史ボランティア バンク「語り部」	ガイド1人 につき、 2名様から	1週間前	無料 (ただし交通費として1,000円)2時間以内 (超える場合は要相談)	歴史のみえるまちづくり協会 tel.0776-35-0855 fax.0776-35-0855	8:30~17:00 (月曜~金曜日) ただし祝日は除く	所要時間/各120分 ●福井駅→北の庄城址公園→内堀公園 →福井城址→天守台跡→御廊下橋→福井神社 ●一乗谷朝倉氏遺跡
	永平寺町観光 ボランティアガイド の会	要相談	1週間前	無料 (ただし交通費として1,000円)	永平寺町商工観光課 tel.0776-61-3921 fax.0776-61-2474	8:30~17:30 (平日)	所要時間/60~90分 【60分】天竜寺→火薬局跡→お館の椿→ 撰取寺→昌蔵寺→蓮光寺 【90分】門前街→寂光苑【60分】吉峰地区→吉峰寺
吉崎語り部の会	1名様より	10日前	1時間1,000円 (7名まで)	あわら市吉崎公民館 tel.0776-75-1205 fax.0776-75-1205	9:00~17:00 (月曜~金曜日)	所要時間/60~120分 ●吉崎御坊跡→越前・加賀県境→鹿島の森 ●細呂木関所跡→のこぎり坂→吉崎御坊跡 ●橋の宿跡→国境名号→のこぎり坂→進如街道→吉崎御坊跡	
鯖江市産業観光 ボランティアガイド の会	1名様より	1週間前	無料 (ただし交通費として1,000円)	鯖江市観光案内所 tel.0778-51-2229 fax.0778-51-2229	9:30~18:00	所要時間/120分 ●JR鯖江駅→めがねミュージアム→舟津神社→王山古墳 →萬慶寺→誠照寺→西山公園→福鉄西山公園駅 ※近松の里めぐり、うるしの里めぐりもご案内します。	
丹南エリア	越前かたりべの会	2名様から	1週間前	無料 (ただし交通費として1,000円)	越前町観光連盟 tel.0778-37-1234 fax.0778-37-1805	8:30~17:00 (月曜~金曜日)	所要時間/60~90分 【60分】越前陶芸村(陶芸公園) 【90分】越前岬→鳥糞岩→水仙ランド→梨子ヶ平千枚田 【60分】福通寺朝日観音→八坂神社
	越前市観光協会 ボランティア部会	1名様より	1週間前	無料 (ただし交通費として1,000円)	越前市観光協会 tel.0778-23-8900 fax.0778-23-8933	9:00~18:00 (月曜~金曜日)	所要時間/120分 ●総社大神宮→国分寺→引接寺→龍泉寺 →正覚寺→千代鶴神社
	南越前町今庄観光 ボランティアガイド 協会	2名様~ 50名様 まで	1週間前	無料 (ただし交通費として1,000円)	南越前町今庄観光協会 tel.0778-45-0074 fax.0778-45-0041	9:00~16:00	所要時間/60~90分 ●今庄駅→「町並散策」・「燈ヶ城跡」・明治殿・ 昭和会館・若狭屋・京藤甚五郎家・酒蔵見学
奥越前エリア	勝山市観光 ガイドボランティア クラブ	原則として 2名以上 から	1週間前	無料 (ただし交通費として1,000円)	(公社)勝山市観光協会 tel.0779-87-1245 fax.0779-87-3110	9:00~17:00 (火曜~日曜日)	所要時間/60~120分 白山平泉寺境内散策コース 【60分】精進坂→御手洗池→三十三間拜殿跡→本社 【120分】菩提林→精進坂→三十三間拜殿跡→本社 →南谷発掘調査地
	観光ボランティア ガイド大野	1名様より	1週間前	無料 (ただし交通費として1,000円)	(一社)大野市観光協会 tel.0779-65-5521 fax.0779-65-8635	8:30~17:00	所要時間/90分 ●結ステーション→御清水→七間通り→寺町通り →石灯籠地藏尊→武家屋敷旧内山家
	観光ボランティア ガイドつるが	2名様 以上から	1週間前 (ただし当日でも 都合がつけば 受付します)	無料 (ただし交通費として1,000円)	(一社)敦賀観光協会 tel.0770-22-8167 fax.0770-22-8197	9:30~18:00 (月曜~金曜日)	所要時間/車で4時間 ●JR敦賀駅→氣比神社→金崎宮(城跡)→赤レンガ倉庫→ ムゼウム館(人道の港)→敦賀鉄道資料館→みなとつるが 山車会館→水戸烈士の墓→氣比の松原→JR敦賀駅
	若狭町 みかたの語り部	1名様より	1週間前	無料 (ただし交通費として1,000円)	若狭町 観光交流課 tel.0770-45-9111 fax.0770-45-9119	8:30~17:15 (月曜~金曜日)	所要時間/45~120分 ●JR三方駅→三方石観音→佐久間記念交流会館→見返りの松 ●JR三方駅→縄文博物館→西田梅林→海浜自然センター ●藤の里会館→舟小屋→レンボライン(山頂公園)→三方五湖周遊
若狭町 かみなかの語り部	1名様より	1週間前	無料 (ただし交通費として1,000円)	若狭町 観光交流課 tel.0770-45-9111 fax.0770-45-9119	8:30~17:15 (月曜~金曜日)	所要時間/60~90分 ●道の駅「若狭熊川宿」→番所→旧逸見勘兵衛家 →宿場館(資料館)→松木神社→西口公園	
観光ボランティア ガイド 「若狭の語り部」	バスの場合 ...5台位 (1台につき ガイド1~2人)	1週間前	無料 (ただし交通費として1,000円)	松木憲司 tel.0770-52-2316 fax.0770-52-2316	9:00~17:00 (月曜~金曜日)	所要時間/120分 ●JR小浜駅→いづみ町→町並み資料館→ 八百比丘尼入定洞(空印寺)→常高寺→ 古い町並み(三丁町)→小浜公園	

福井県内歴史系博物館一覽

※入館料及び休館日等については各施設までお問い合わせください。

施設名	住所	連絡先	開館時間
吉崎御坊蓮如上人記念館	あわら市吉崎1丁目901-1	0776-75-2200	AM9:00~PM5:00
あわら市郷土歴史資料館	あわら市春宮2丁目14-1	0776-73-5158	AM9:30~PM6:00(最終入館はPM5:30まで)
坂井市丸岡歴史民俗資料館	坂井市丸岡町霞4-12	0776-67-0001	AM8:30~PM5:00(入館はPM4:30まで)
みくに龍翔館	坂井市三国町緑ヶ丘4-2-1	0776-82-5666	AM9:00~PM5:00(入館はPM4:30まで)
福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	福井市安波賀町4-10	0776-41-2301	AM9:00~PM5:00(入館はPM4:30まで) ※朝倉氏遺跡案内ボランティア(遺跡内を無料で案内 ※4~11月の土・日・祝日のみ)
福井市立郷土歴史博物館	福井市宝永3丁目12-1	0776-21-0489	AM9:00~PM7:00(11/6~2/末はPM5:00まで) ※博物館ボランティア「とねりの会」(博物館横の養浩館庭園も無料で案内 ※要事前予約申し込み)
福井県立歴史博物館	福井市大宮2-19-5	0776-22-4675	AM9:00~PM5:00(入館はPM4:30まで)
福井県立美術館	福井市文京3-16-1	0776-25-0452	AM9:00~PM5:00(入館はPM4:30まで)
福井市愛宕坂茶道美術館	福井市足羽1-8-5	0776-33-3933	AM9:00~PM5:15(入館はPM4:45まで)
福井市自然史博物館	福井市足羽上町147	0776-35-2844	AM9:00~PM5:15(入館はPM4:45まで)
福井市美術館「アートラボふくい」	福井市下馬3丁目1111	0776-33-2990	AM9:00~PM5:15(入館はPM4:45まで)
福井県立こども歴史文化館	福井市東城1-18-21	0776-21-1500	AM9:00~PM5:00(入館はPM4:30まで)
福井県立恐竜博物館	勝山市村岡町寺尾51-11	0779-88-0001	AM9:00~PM5:00(入館はPM4:30まで)
勝山城博物館	勝山市村平泉町平泉	0779-88-6200	AM9:30~PM4:30(入館はPM4:00まで)
白山平泉寺歴史探遊館まほろば	勝山市平泉寺町平泉寺66-2-12	0779-87-6001	AM9:00~PM5:00(入館はPM4:30まで)
大野市歴史博物館	大野市天神2丁目2-4	0779-65-5520	AM9:00~PM4:00(日祝はPM5:00まで)
福井県自然保護センター	大野市南六呂市69-11-2	0779-67-1655	AM9:00~PM5:00(入館はPM4:30まで)
鯖江市まなべの館	鯖江市長泉寺町1-9-20	0778-51-5999	AM9:00~PM5:00(入館はPM4:30まで)
越前町織田文化歴史館	越前町織田153-1-8	0778-36-2288	AM10:00~PM6:00(入館はPM5:30まで)
越前がにミュージアム	越前町厨71-324-1	0778-37-2626	AM9:00~PM5:00
福井県陶芸館	越前町小曾原120-61	0778-32-2174	AM9:00~PM5:00(入館はPM4:30まで)
越前市今立歴史民俗資料館	越前市定友21-3-1	0778-43-0229	AM10:00~PM6:00(日曜はPM5:30まで)
越前和紙の里 紙の文化博物館	越前市新在家11-12	0778-42-0016	AM9:00~PM4:00
越前市武生公会堂記念館	越前市蓬萊町8-8	0778-21-3900	AM10:00~PM6:00(入館はPM5:30まで)
能楽の里歴史館	池田町稲荷35-4	0778-44-6475	AM9:00~PM4:00(土・日・祝のみ開館)
北前船主の館 右近家	南越前町河野2-15	0778-48-2196	AM9:00~PM4:00
敦賀郷土博物館	敦賀市三島町1丁目八幡神社内	0770-22-1193	AM9:00~PM5:00(入館はPM4:30まで)
敦賀市立博物館	敦賀市相生町7-8	0770-25-7033	AM10:00~PM5:00(H27.7.4 リニューアルオープン)
みなとつるが山車会館	敦賀市相生町7-6	0770-21-5570	AM10:00~PM5:00(入館はPM4:30まで)
若狭国吉城歴史資料館	美浜町佐柿25-2	0770-32-0050	AM9:00~PM5:00(12~3月はAM10:00~PM4:30)
若狭三方縄文博物館	若狭町鳥浜122-12-1	0770-45-2270	AM9:00~PM5:00(入館はPM4:30まで)
福井県海浜自然センター	若狭町世久見18-2	0770-46-1101	AM9:00~PM5:00(7/21~8/31はPM6:00まで)
若狭鯖街道熊川宿資料館「宿場館」	若狭町熊川130-4-2	0770-62-0330	AM9:00~PM5:00(11~3月はPM4:00まで)
若狭町歴史文化館	若狭町市場20-17	0770-62-2711	AM9:00~PM5:00
福井県立若狭歴史博物館	小浜市遠敷2-104	0770-56-0525	AM9:00~PM5:00(入館はPM4:30まで)
高浜町郷土資料館	高浜町南団地1-14-1	0770-72-5270	AM9:00~PM5:00
おおい町立郷土史料館	おおい町成和2-1-1	0770-77-2820	AM9:00~PM6:00(入館はPM5:30まで)
おおい町曆会館	おおい町名田庄納田庄111-7	0770-67-2876	AM9:00~PM4:00

ふくい 戦国 マップ



福井市

名 前	ページ	マップ
10 糸崎寺	17	E-2
11 九頭竜川(中角付近)	9	F-2
12 燈明寺堰新田義貞戦没伝説地	36	F-3
13 福井市愛宕坂茶道美術館	19	F-3
14 福井県立歴史博物館	18	F-3
15 柴田神社	27	F-3
16 福井市立郷土歴史博物館	26	F-3
17 旧一乗町	27	F-3
18 西光寺・柴田勝家公資料館	27	F-3
19 北庄城跡	31	F-3
20 湊八幡神社	37	F-3
21 長慶寺	18	F-3
22 東郷横山城跡	9	G-3
23 西蓮寺	23	G-3
24 明智神社	23	G-3
25 文殊山	8	F-3
26 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	7	G-3
27 西山光照寺跡	19	G-3
28 一乗谷朝倉氏遺跡 復原町並	6	G-3
29 一乗谷朝倉氏遺跡	17	G-3
30 一乗谷城跡	34	G-3
	6	G-3
	12	G-3
	23	G-3
	9	G-3

池田町

名 前	ページ	マップ
46 能楽の里歴史館	15	G-4
47 能面美術館	15	G-4

越前町

名 前	ページ	マップ
55 福通寺	17	F-3
56 越前町織田文化歴史館	15	E-4
57 劔神社	20	E-4
58 福井県陶芸館	19	E-4
59 越前陶芸村	14	E-4

南越前町

名 前	ページ	マップ
60 朝倉街道	34	F-4
61 柚山城跡	8	F-5
62 木ノ芽峠城砦群	21	F-5
	34	F-5
	37	F-5

敦賀市

名 前	ページ	マップ
63 玄蕃尾城跡	30	F-6
64 疋壇城跡	12	F-6
65 妙顕寺	30	F-6
66 みなとつるが山車会館	11	E-6
67 永賞寺	29	E-6
68 敦賀城跡石碑(敦賀西小学校)	29	E-6
69 八幡神社	29	E-6
70 晴明神社	29	E-6
71 氣比神宮	35	E-6
72 金ヶ崎城跡	43	E-6
73 金崎宮	35	E-6
74 常宮神社	28	E-5
75 西福寺	29	E-6
76 来迎寺(敦賀城中門)	8	E-6

美浜町

名 前	ページ	マップ
77 若狭国吉城歴史資料館	11	E-6
78 国吉城跡	29	E-6
	30	E-6

若狭町

名 前	ページ	マップ
79 熊川宿	11	D-7

小浜市

名 前	ページ	マップ
80 福井県立若狭歴史博物館	18	D-7
81 神宮寺	25	D-7
82 小浜城跡	32	D-7
83 御食国若狭おばま食文化館	32	C-7
84 発心寺	33	C-7
85 後瀬山城跡	25	C-7
	30	C-7

高浜町

名 前	ページ	マップ
86 高浜城跡(城山公園)	25	B-7
87 長福寺	33	B-7
88 佐伎治神社	25	B-7
	32	B-7



※ガイドブックに登場する場所の一部をマップに示しています。皆さんの知っている戦国ゆかりの地を追加して、このマップを充実させましょう!

名 前	ページ	マップ
1 吉崎御坊蓮如上人記念館	41	G-1
2 吉崎御坊・蓮如公園	40	G-1
3 鳴谷山の切り通し	41	G-1
4 細呂木関所跡	41	G-1
5 あわら市郷土歴史資料館	41	F-2
6 瀧谷寺	43	F-2
7 称念寺(長崎城跡)	22	G-2
8 丸岡城	31	G-2
9 坂井市丸岡歴史民俗資料館	36	G-2
10 越前松島水族館		
11 道の駅「みくに」		
12 道の駅「えちぜん鉄道」		
13 道の駅「みくに」		
14 道の駅「みくに」		
15 能楽の里歴史館	15	G-4
16 能面美術館	15	G-4
17 福通寺	17	F-3
18 西蓮寺	23	G-3
19 柴田神社	27	F-3
20 湊八幡神社	37	F-3
21 柚山城跡	8	F-5
22 称念寺(長崎城跡)	22	G-2
23 西蓮寺	23	G-3
24 明智神社	23	G-3
25 文殊山	8	F-3
26 福井県立郷土歴史博物館	26	F-3
27 旧一乗町	27	F-3
28 西光寺・柴田勝家公資料館	27	F-3
29 北庄城跡	31	F-3
30 湊八幡神社	37	F-3
31 坂井市丸岡歴史民俗資料館	36	G-2
32 吉崎寺	42	H-3
33 村岡山(御立山)	39	H-3
34 勝山城博物館	37	H-3
35 白山平泉寺	38	H-3
36 白山平泉寺歴史探遊館 まほろば	39	H-3
37 越前大野城	13	H-3
38 朝倉義景墓所	12	H-3
39 大野まちなか	13	H-3
40 大野市歴史博物館	13	H-3
41 戌山城跡	13	H-3
42 美濃街道	22	I-4
43 うるしの里会館	15	G-4
44 漆器神社(河和田町)	15	G-4
45 漆器神社(片山町)	15	G-4
46 池田町		
47 能楽の里歴史館	15	G-4
48 越前和紙の里	14	G-4
49 岡太神社・大瀧神社	14	G-4
50 タケフナイフビレッジ	17	G-4
51 万葉菊花園	16	G-4
52 正覚寺	21	F-4
53 府中城跡	21	F-4
54 龍門寺	21	F-4
55 福通寺	17	F-3
56 越前町織田文化歴史館	15	E-4
57 劔神社	20	E-4
58 福井県陶芸館	19	E-4
59 越前陶芸村	14	E-4
60 朝倉街道	34	F-4
61 柚山城跡	8	F-5
62 木ノ芽峠城砦群	21	F-5
63 敦賀市		
64 敦賀市		
65 敦賀市街	65	G-6
66 敦賀市街	66	G-6
67 敦賀市街	67	G-6
68 敦賀市街	68	G-6
69 敦賀市街	69	G-6
70 敦賀市街	70	G-6
71 敦賀市街	71	G-6
72 敦賀市街	72	G-6
73 敦賀市街	73	G-6
74 敦賀市街	74	G-6
75 敦賀市街	75	G-6
76 敦賀市街	76	G-6
77 敦賀市街	77	G-6
78 敦賀市街	78	G-6
79 敦賀市街	79	G-6
80 敦賀市街	80	G-6
81 敦賀市街	81	G-6
82 敦賀市街	82	G-6
83 敦賀市街	83	G-6
84 敦賀市街	84	G-6
85 敦賀市街	85	G-6
86 敦賀市街	86	G-6
87 敦賀市街	87	G-6
88 敦賀市街	88	G-6
89 敦賀市街	89	G-6
90 敦賀市街	90	G-6

年 月 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日



平成 26 年度文化庁文化芸術振興費補助金
(文化遺産を活かした地域活性化事業)

編集・協力／福井県
発行／「戦国ふくい」の文化遺産活用実行委員会
(一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会内)
発行日／平成27年3月

索引

	名称	モデルコース	ページ	エリア
あ	明智神社	9	23	福井市
	朝倉街道	16	34	南越前町～坂井市丸岡町
	朝倉義景墓所	4	12	大野市
	あわら市郷土歴史資料館	19	41	あわら市
い	一乗谷朝倉氏遺跡	1	6	福井市
		4	12	福井市
		9	23	福井市
	一乗谷朝倉氏遺跡 復原町並	1	6	福井市
	6	17	福井市	
	16	34	福井市	
	一乗谷城跡	2	9	福井市
	糸崎寺	6	17	福井市
	戌山城跡	4	13	大野市
う	うるしの里会館	5	15	鯖江市
え	永賞寺	12	29	敦賀市
	越前大野城	4	13	大野市
		14	31	大野市
	越前町織田文化歴史館	5	15	越前町
	8	20	越前町	
	越前陶芸村	5	14	越前町
	越前和紙の里	5	14	越前市
お	大野市歴史博物館	4	13	大野市
	大野まちなか	4	13	大野市
	岡太神社・大瀧神社	5	14	越前市
	小浜城跡	15	32	小浜市
か	勝山城博物館	17	37	勝山市
	金崎宮	16	35	敦賀市
	金ヶ崎城跡	3	11	敦賀市
き	北庄城跡	14	31	福井市
	吉峰寺	20	42	永平寺町
	木ノ芽峠城砦群	17	37	南越前町
	旧一乗町	11	27	福井市
く	九頭竜川	2	9	福井市
		17	36	福井市
	国吉城跡	13	30	美浜町
	熊川宿	3	11	若狭町
け	氣比神宮	20	43	敦賀市
	玄蕃尾城跡	13	30	敦賀市
	西光寺	11	27	福井市
さ	西福寺	12	29	敦賀市
	西蓮寺	9	23	福井市
	坂井市丸岡歴史民俗資料館	17	36	坂井市丸岡町
	佐伎治神社	15	32	高浜町
し	鳴谷山の切り通し	19	41	あわら市
	漆器神社(片山町)	5	15	鯖江市
	漆器神社(河和田町)	5	15	鯖江市
	柴田勝家公資料館	11	27	福井市
	柴田神社	11	27	福井市
	正覚寺	8	21	越前市
	常宮神社	12	28	敦賀市
	称念寺(長崎城跡)	9	22	坂井市丸岡町
	神宮寺	15	32	小浜市
せ	晴明神社	16	35	敦賀市

戦国ゆかりの地をめぐろう。

越前若狭 戦国歴史 玉手箱QR (www.sengoku-fukui.jp)



	名称	モデルコース	ページ	エリア
そ	仙山城跡	2	8	南越前町
		8	21	南越前町
		16	34	南越前町
た	大本山 永平寺	20	42	永平寺町
	高浜城跡(城山公園)	15	33	高浜町
	瀧谷寺	20	43	坂井市三国町
	タケフナイフビレッジ	6	17	越前市
ち	長慶寺	7	18	福井市
	長福寺	10	25	高浜町
つ	敦賀城跡石碑(敦賀西小学校)	12	29	敦賀市
	劔神社	8	20	越前町
と	東郷横山城跡	2	9	福井市
	燈明寺巖新田義貞戦没伝説地	17	36	福井市
に	西山光照寺	1	7	福井市
の	能楽の里歴史館	5	15	池田町
	能面美術館	5	15	池田町
	後瀬山城跡	10	25	小浜市
		13	30	小浜市
は	白山平泉寺	18	38	勝山市
	白山平泉寺歴史探遊館 まほろば	18	39	勝山市
	八幡神社	12	29	敦賀市
ひ	足壇城跡	13	30	敦賀市
	足壇城跡・刀根坂	4	12	敦賀市
ふ	福井県陶芸館	7	19	越前町
		1	7	福井市
	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	7	19	福井市
		17	37	福井市
	福井県立歴史博物館	7	18	福井市
	福井県立若狭歴史博物館	7	18	小浜市
	福井市愛宕坂茶道美術館	10	25	小浜市
	福井市郷土歴史博物館	15	33	小浜市
	福井市愛宕坂茶道美術館	7	19	福井市
	福井市郷土歴史博物館	11	26	福井市
		16	35	福井市
	福通寺	6	17	越前町
	府中城跡	8	21	越前市
ほ	細呂木関所跡	19	41	あわら市
	発心寺	10	25	小浜市
ま	丸岡城	14	31	坂井市丸岡町
	万葉菊花園	6	16	越前市
み	御食国若狭おぼえ食文化館	15	33	小浜市
	みなとつるが山車会館	12	29	敦賀市
	湊八幡神社	17	37	福井市
	美濃街道	9	22	大野市～福井市
	妙顕寺	3	11	敦賀市
む	村岡山(御立山)	18	39	勝山市
も	文殊山	2	8	福井市
よ	吉崎御坊・蓮如公園	19	40	あわら市
	吉崎御坊蓮如上人記念館	19	41	あわら市
ら	来迎寺(敦賀城中門)	2	8	敦賀市
り	龍門寺	8	21	越前市
わ		3	11	美浜町
	若狭国吉城歴史資料館	12	29	美浜町

※平成27年(2015)現在